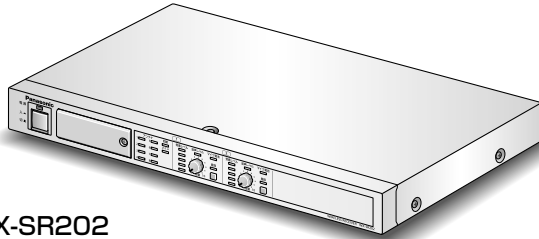


取扱説明書

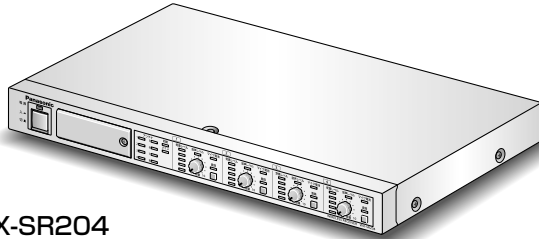
工事説明付き

ワイヤレス受信機

品番 **WX-SR202**
WX-SR204



WX-SR202



WX-SR204

保証書別添付

このたびは、パナソニック製品をお買い上げいただき、まことにありがとうございます。

- 取扱説明書をよくお読みのうえ、正しく安全にお使いください。
- ご使用前に「安全上のご注意」（10～12ページ）を必ずお読みください。
- 保証書は、「お買い上げ日・販売店名」などの記入を確かめ、取扱説明書とともに大切に保管してください。

はじめに

商品概要

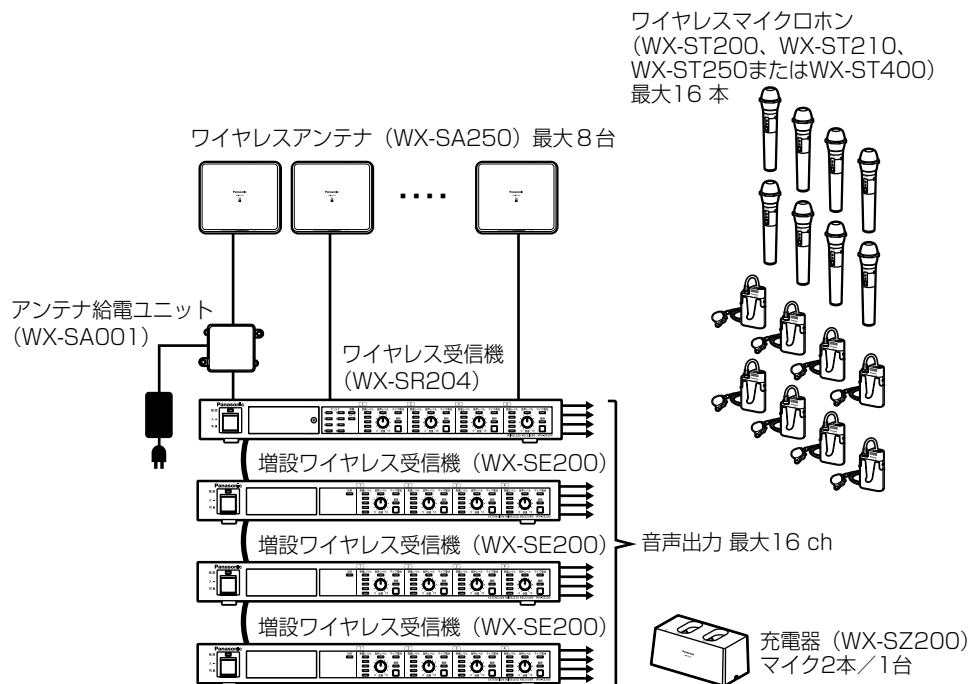
本機は、1.9 GHz帯デジタルワイヤレスマイクシステムのワイヤレス受信機です。本機に接続するワイヤレスアンテナ（WX-SA250：別売品）を介して、ワイヤレスマイクロホン（WX-ST200、WX-ST210、WX-ST250、WX-ST400：ともに別売品）またはポータブルワイヤレス送信機（WX-ST510：別売品）からの音声を受信し、音量を調節して出力します。またワイヤレスアンテナに電源の供給もします。

- ワイヤレスアンテナは8台まで接続可能です。
- ワイヤレス受信機WX-SR202（2チャンネルモデル）は2本、WX-SR204（4チャンネルモデル）は4本のワイヤレスマイクロホンまたはポータブルワイヤレス送信機を使用可能です。
- 本機に増設ワイヤレス受信機（WX-SE200：別売品）を接続することで（3台まで）、ワイヤレス受信機WX-SR202のシステムでは最大14本、WX-SR204のシステムでは最大16本のワイヤレスマイクロホンまたはポータブルワイヤレス送信機を使用可能です。
- 音声出力はチャンネル別出力とミキシング出力があり、接続機器に応じて選択可能です。

システム概要

1.9 GHz帯デジタルワイヤレスマイクシステムSR200シリーズは1.9 GHz帯DECT*準拠方式を採用したワイヤレスマイクシステムです。SR200シリーズは5ページに記載の関連機器から構成され、単一のシステムで最大で16本までのワイヤレスマイクまたはポータブルワイヤレス送信機を使用することが可能です。

※ DECT (Digital Enhanced Cordless Telecommunications)
 : デジタルコードレス電話の通信規格



隣接した空間で複数のシステムを使用する際は、お互いのシステムからの電波の干渉を低減するため、無線同期して使用する必要があります。

この場合、無線同期の基準となるシステムがメインシステム、メインシステムに無線同期するシステムがサブシステムとなります。

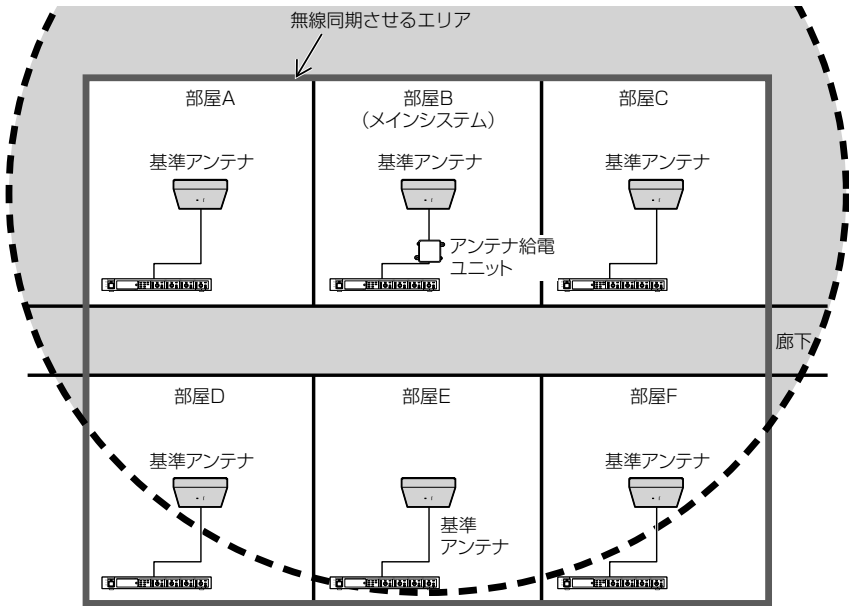
メインシステムとサブシステムはそれぞれのシステムの基準アンテナで通信することにより、無線同期しており、システムを安定的に動作させるために、メインシステムの基準アンテナは常時通電が必要になります。

メインシステムにアンテナ給電ユニットを用いて常時通電を行います。またはアンテナを単独でアンテナ給電ユニットに接続することで同期専用アンテナとして、メインシステムの基準アンテナと同様に運用が可能です。

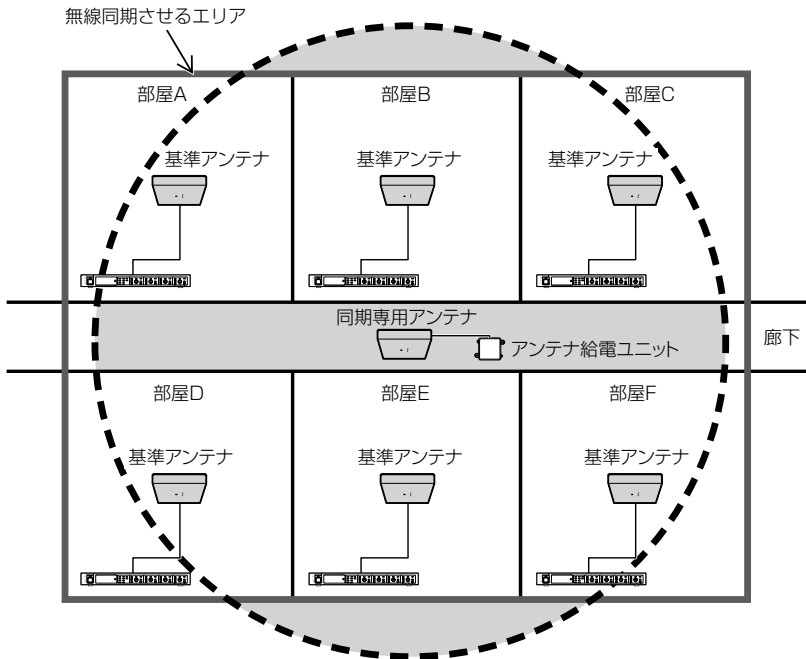
はじめに

はじめに

- 複数システムの無線同期の例 (部屋Bの受信機をメインシステムとし、それ以外をサブシステムとする場合)



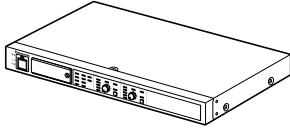
- 複数システムの無線同期の例 (同期専用アンテナを用い、すべての受信機をサブシステムとする場合)



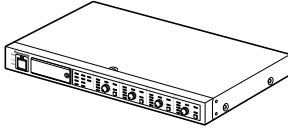
関連機器

1.9 GHz帯デジタルワイヤレスマイクシステムの関連機器は以下のとおりです。

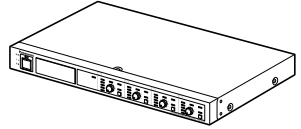
- ◆ ワイヤレス受信機（本機）
WX-SR202



- ◆ ワイヤレス受信機（本機）
WX-SR204



- ◆ 増設ワイヤレス受信機
（別売品）WX-SE200



- ◆ ワイヤレスマイクロホン
（ハンドヘルド型）
（別売品）WX-ST200



- ◆ ワイヤレスマイクロホン
（防滴型）（別売品）
WX-ST210



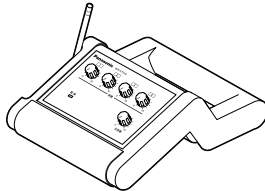
- ◆ ワイヤレスマイクロホン
（ダイナミック型）
（別売品）WX-ST250



- ◆ ワイヤレスマイクロホン
（タイピン型）（別売品）
WX-ST400



- ◆ ポータブルワイヤレス送
信機（別売品）
WX-ST510



- ◆ ワイヤレスアンテナ
（別売品）WX-SA250



- ◆ 充電器（別売品）
WX-SZ200



- ◆ アンテナ給電ユニット
（別売品）WX-SA001



- ◆ ヘッドセットマイクロホン
（別売品）WX-SM405



はじめに

付属品をご確認ください

取扱説明書（本書）.....	1冊
保証書.....	1式
ラックマウント金具.....	2個
ラックマウント取付ねじ（M4×10 mm）.....	4本
ユーロブロックコネクター（6ピン）.....	2個（WX-SR202）
.....	3個（WX-SR204）

免責について

弊社はいかなる場合も以下に関して一切の責任を負わないものとします。

- ①本商品に関連して直接または間接に発生した、偶発的、特殊、または結果的損害・被害
- ②お客様の誤使用や不注意による障害または本商品の破損など不便・損害・被害
- ③お客様による本商品の分解、修理または改造が行われた場合、それに起因するかどうかにかかわらず、発生した一切の故障または不具合
- ④本商品の故障・不具合および設定・設置の誤りを含む何らかの理由または原因により、拡声ができないことなどで被る不便・損害・被害
- ⑤第三者の機器などと組み合わせたシステムによる不具合、あるいはその結果被る不便・損害・被害

著作権について

本製品に含まれるソフトウェアの譲渡、コピー、逆アセンブル、逆コンパイル、リバースエンジニアリングは禁じられています。また、本製品に含まれるすべてのソフトウェアの輸出法令に違反した輸出行為は禁じられています。

オープンソースソフトウェアについて

lwIP's License

lwIP is licenced under the BSD licence:

Copyright (c) 2001-2004 Swedish Institute of Computer Science.

All rights reserved.

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

1. Redistributions of source code must retain the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.
2. Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.
3. The name of the author may not be used to endorse or promote products derived from this software without specific prior written permission.

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE AUTHOR "AS IS" AND ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE AUTHOR BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

著作権等について

上記を除いて、本ソフトウェアの著作権、その他の無体財産権は、パナソニック株式会社または第三者に帰属しており、お客様へは移転しません。

また、本ソフトウェアを使用した際に生じた障害、損失などに関して、弊社はいかなる責任も負いません。

はじめに

ネットワークに関するお願い

本商品はネットワークへ接続して使用するため、以下のような被害を受けることが考えられます。

- (1) 本商品を経由した情報の漏えいや流出
- (2) 悪意を持った第三者による本商品の不正操作
- (3) 悪意を持った第三者による本商品の妨害や停止

このような被害を防ぐため、お客様の責任の下、下記のような対策も含め、ネットワークセキュリティ対策を十分に行ってください。

- ファイアウォールなどを使用し、安全性の確保されたネットワーク上で本商品を使用する。
- コンピューターが接続されているシステムで本商品を使用する場合、コンピューターウイルスや不正プログラムの感染に対するチェックや駆除が定期的に行われていることを確認する。
- 不正な攻撃から守るため、必ず運用支援ソフトで本機のパスワードを設定する。

略称について

本書では、以下の略称を使用しています。

- ワイヤレス受信機 (WX-SR202、WX-SR204) を本機または受信機と表記しています。
- 増設ワイヤレス受信機 (WX-SE200：別売品) を増設受信機と表記しています。
- ワイヤレスマイクロホン (WX-ST200、WX-ST210、WX-ST250、WX-ST400：ともに別売品) をマイクと表記しています。
- ポータブルワイヤレス送信機 (WX-ST510：別売品) を送信機と表記しています。
- ワイヤレスアンテナ (WX-SA250：別売品) をアンテナと表記しています。
- アンテナ給電ユニット (WX-SA001：別売品) をアンテナ給電ユニットと表記しています。
- パーソナルコンピューターをPCと表記しています。

本文中に記載されている別売品などの情報は、2018年12月現在のもので、最新の情報は、お買い上げの販売店にお問い合わせください。

記号について

本書では、以下の記号を用いて説明しています。



：該当する機能を使用するにあたり、制限事項や注意事項が書かれています。



：使用上のヒントが書かれています。

もくじ

はじめに	
はじめに	2
商品概要	2
システム概要	3
関連機器	5
付属品をご確認ください	6
免責について	6
著作権について	6
オープンソースソフトウェアについて	7
ネットワークに関するお願い	8
略称について	8
記号について	8
安全上のご注意	10
使用上のお願い	13
各部の名前とはたらき	15
設置・設定	
設置のしかた	19
設置上のお願い	19
ラックへの取り付けかた	22
接続のしかた	24
アンテナとの接続	24
ユーロブロックコネクターの接続	25
音声出力の接続	26
増設受信機の接続	27
設定保守用PCとの接続	30
マイク、送信機との接続	31
アンテナの設置のしかた	32
はじめに	32
アンテナの無線出力レベルと配置について	32
複数の受信システムの運用について	36
設定のしかた	41
アンテナ・フィールド選択	41
無線同期設定	43
マイク電池設定	47
マイク音声設定	48
ペアリング登録	49
無線ペアリング	49
有線ペアリング	51
使いかた	
使いかた	53
操作のしかた	53
受信レベルを確認する	54
マイク電池残量を確認する	55
登録されているマイクまたは送信機を確認する	56
運用支援ソフトについて	58
その他	
外形寸法図	59
故障かな!?	60
仕様	61
保証とアフターサービス	62

安全上のご注意

必ずお守りください

人への危害、財産の損害を防止するため、必ずお守りいただくことを説明しています。

■ 誤った使いかたをしたときに生じる危害や損害の程度を区分して、説明しています。



警告

「死亡や重傷を負うおそれがある内容」です。

■ お守りいただく内容を次の図記号で説明しています。(次は図記号の例です)



してはいけない内容です。



実行しなければならない内容です。



警告



工事は販売店に依頼する

工事には技術と経験が必要です。火災、感電、けが、器物損壊の原因となります。

- 必ず販売店に依頼してください。

ねじやボルトは指定されたトルクで締め付ける

落下によるけがや事故の原因となります。

電源プラグは根元まで確実に差し込む

差し込みが不完全ですと、感電や発熱による火災の原因となります。

- 傷んだプラグ、ゆるんだコンセントは使用しないでください。

電源コードは、必ずプラグ本体を持って抜く

コードが傷つき、火災や感電の原因となります。

決められたヒューズを使う

火災の原因となります。

お手入れのときは電源を切る

感電の原因となります。

電源プラグのほこりなどは定期的にとる

プラグにほこりなどがたまると、湿気などで絶縁不良となり、火災の原因となります。

- 電源プラグを抜き、乾いた布でふいてください。

異常があるときは、すぐ使用をやめる

煙が出る、においがするなど、そのまま使用すると火災の原因となります。

- 直ちに電源プラグを抜いて、販売店に連絡してください。

 **警告****禁止****電源を入れたまま工事、配線をしない**

火災や感電の原因となります。

ケーブルなどは引っ張らない

火災や感電の原因となります。

ケーブルなどを傷つけない

重いものを載せたり、はさんだりすると、ケーブルが傷つき、火災や感電の原因となります。

可燃性ガスの雰囲気中で使用しない

爆発によるけがの原因となります。

塩害や腐食性ガスが発生する場所に設置しない

取付部が劣化し、落下によるけがや事故の原因となります。

湿気やほこりの多い場所に設置しない

火災や感電の原因となります。

不安定な場所に置かない

落下や転倒によるけがや事故の原因となります。

コンセントや配線器具の定格を超える使いかたや、交流100 V以外での使用はしない

たこ足配線などで、定格を超えると、発熱による火災の原因となります。

異物を入れない

水や金属が内部に入ると、火災や感電の原因となります。

- 直ちに電源プラグを抜いて、販売店に連絡してください。

電源コード・電源プラグを破損するようなことはしない

(傷つける、加工する、熱器具に近づける、無理に曲げる、ねじる、引っ張る、重い物を載せる、束ねるなど)

傷んだまま使用すると、感電・ショート・火災の原因となります。

- コードやプラグの修理は販売店に相談してください。

雷のときは工事、配線をしない

火災や感電の原因となります。



ぬれた手で、電源プラグの抜き差しはしない
感電の原因となります。

ぬれ手禁止



分解しない、改造しない
火災や感電の原因となります。

分解禁止



水をかけたり、ぬらしたりしない
火災や感電の原因となります。

水ぬれ禁止

●直ちに電源を切り、販売店に連絡してください。

機器の上や周囲に水などの入った容器を置かない

水などが中に入った場合、火災や感電の原因となります。

●直ちに電源プラグを抜いて、販売店に連絡してください。

使用上のお願い

「安全上のご注意」に記載されている内容とともに、以下の項目をお守りください。

本機は屋内専用です

- 屋外での使用はできません。
長時間直射日光のあたるところや、冷・暖房機の近くには設置しないでください。変形・変色または故障・誤動作の原因になります。また、水滴または水沫のかからない状態で使用してください。

丁寧に取り扱いってください

- 本機は不適切な取り扱いや保管によって損傷する部品が含まれています。
- 部品に欠陥がある場合は、修理または交換してください。

使用温度範囲は

- 0℃～45℃です。この範囲外で使用すると、故障または誤動作の原因となります。

電源スイッチについて

- [電源] スイッチを「切」にしても電源からは遮断されません（[電源] 表示灯が消灯しても、電源が遮断されているとは限りません）。電源を遮断する場合には、電源コンセントから本機の電源プラグを抜いてください。

電源について

- 電源電圧はAC100 V（50 Hz／60 Hz）です。十分な容量のある電源に接続してください。
- 電源コードは電源に必ず次のいずれかの方法で接続してください。
 - ・ 本機を電源コンセントの近くに設置し、電源プラグに容易に手が届く状態にする。
 - ・ 接点距離が3 mm以上ある分電盤のブレーカーに接続する。ブレーカーは保護アース導体を除く主電源のすべての極が遮断できるものを使用すること。

マイクの電池残量表示について

- マイクまたは送信機とアンテナの距離が離れると、受信電波が低下し、マイクまたは送信機から送られてくる電池残量のデータが読み取れない場合があります。電池残量の表示機能は、電波を安定して受信できる範囲内でご使用ください。マイクまたは送信機からアンテナまでの距離（無線到達距離）に関しては、「アンテナ・フィールド選択」(41ページ)をお読みください。

電源スイッチを入／切するときは

- パワーアンプや周辺機器の電源を切ってから行ってください。クリックノイズが発生し、スピーカーや周辺機器を破損する恐れがあります。

使用上のお願い

ネットワークセキュリティについて



- パスワードは、セキュリティ強化のため、運用支援ソフトで定期的に変更してください。

システム起動時間について

- 本システムでは、マイク信号の秘話性を確保するため、システム起動時にペアリング登録されたすべてのマイクまたは送信機と接続されているアンテナの認証データ（最大96マイク）を照合しています。これらの処理をシステム起動時に実行しているため、アンテナ接続数、同期設定の有無、マイクまたは送信機のペアリング登録数により起動時間が異なります。起動時間の目安は下表を参照ください。
※無線同期設定がサブシステムの場合、起動時に他のシステムと無線同期を行っております。

起動時間の目安（マイク4本登録時^{*1}）

接続アンテナ数	起動時間		
	スタンドアロンシステム	メインシステム ^{*2}	サブシステム ^{*3}
1	約 15 秒	約 19 秒	21 秒～ 23 秒
2	約 16 秒	約 21 秒	23 秒～ 25 秒
4	約 17 秒	約 23 秒	25 秒～ 27 秒
8	約 19 秒	約 26 秒	28 秒～ 30 秒

- ※1 マイクの登録数が増えると起動時間も長くなります。（送信機はマイク1台相当）
- ※2 基準アンテナを通电した後に、受信機を起動したとき（1回目のみ）、約8秒プラスしてかかります。
- ※3 サブシステムを起動すると無線同期先を探しますが、同期先がない、または同期ができない場合は、約12～20秒プラスしてかかります。

長期間使用しない場合は

- [電源] スイッチを「切」にして、電源プラグをコンセントから抜いてください。

結露について

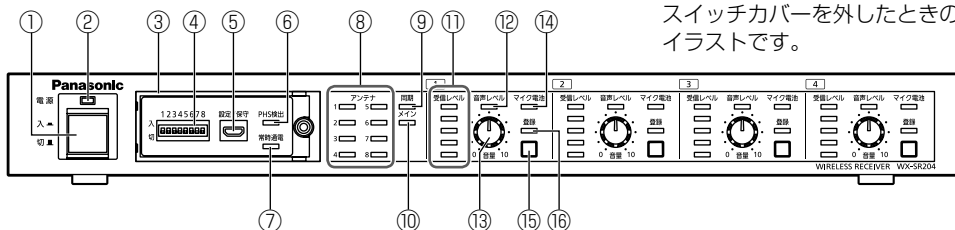
- 結露は、故障の原因になりますので注意してください。
以下のようなときは結露が発生しやすくなります。
 - ・湿度が高いとき
 - ・冷たい場所から、温度や湿度が高い場所に移動したとき
- 結露が発生した場合は、1～2時間程度放置して、結露がなくなったことを確認してから電源を入れてください。

お手入れについて

- 電源を切ってから行ってください。けがの原因になります。
- お手入れは必ず乾いたやわらかい布をご使用ください。
- シンナーやベンジンなど、揮発性のものは使用しないでください。
- 化学ぞうきんをご使用の際は、その注意書きにしたがってください。
- ほこりがひどいときは、掃除機などでほこりを吸い取るように取り除いてください。

各部の名前とはたらき

前面



※イラストはWX-SR204を使用しています。
スイッチカバーを外したときのイラストです。

①電源スイッチ【入/切】

電源を「入/切」します。

②電源表示灯【電源】（緑色）

電源を入れると点灯します。切ると消灯します。

③スイッチカバー

ねじをゆるめて、スイッチカバーを外すと、内部に本機を調節するためのスイッチ（④）、端子（⑤）、表示灯（⑥、⑦）があります。通常は取り付けたままご使用ください。

④動作設定スイッチ（スイッチカバー内）

本機の各種設定を行います。

動作設定スイッチNo.1、No.2：アンテナ・フィールド選択（41ページ）

動作設定スイッチNo.3、No.4：無線同期設定（43ページ）

動作設定スイッチNo.5：マイク電池設定（47ページ）

動作設定スイッチNo.6：マイク音声設定（48ページ）

動作設定スイッチNo.7、No.8は未使用

電源「入」中に、設定変更しても設定内容は反映されません。電源「入」中に設定変更した場合は、本機の電源を「切」にしてから再度「入」にして、再起動してください。

⑤設定保守用接続端子【設定/保守】（スイッチカバー内）

マイクまたは送信機と接続するUSB2.0マイクロBコネクターです。

マイクまたは送信機と接続する場合は変換ケーブル（マイクロBオスータイプAメス）（市販品）およびUSB2.0ケーブル（タイプAオスーマイクロBオス）（市販品）で接続します。

※変換ケーブルはUSBホストケーブル（OTGケーブル）を使用してください。

⑥PHS検出表示灯【PHS検出】（緑色）（スイッチカバー内）

アンテナと同一空間にPHS親機の存在が検出されると点灯します。

⑦常時通電表示灯【常時通電】（緑色）（スイッチカバー内）

本機が電源「入」のとき、あるいは本機が電源「切」で本機の基準アンテナにアンテナ給電ユニットから電源供給されているときに点灯します。

各部の名前とはたらき

⑧ アンテナ表示灯 [アンテナ 1/2/3/4/5/6/7/8]

起動時はシステム起動状況を表示（「操作のしかた」（53ページ））し、運用中は、本機に接続されているアンテナの状態を表示します。

- 点灯（緑色）：正常接続
- 点灯（橙色）：アンテナとの接続異常



- 本機起動時にアンテナとの接続を確認します。本機起動後に違うアンテナに接続すると、使用不可となりアンテナ表示灯が橙色点灯します。
- アンテナ1（基準アンテナ）の [アンテナ] 表示灯が橙点灯している場合は基準アンテナを復旧するためにシステムを再起動してください。

- 点滅（橙色）：アンテナバージョンアップ中
- 点滅（赤色）：アンテナ故障、運用中に受信機アンテナ間のケーブルが外れた
- 点灯（赤色）：通信異常、供給電源異常
- 交互点灯（赤色／緑色）：接続先アンテナのファームウェアのバージョンがV1.00のとき
全てのアンテナ表示灯同時点滅（橙色）：接続先増設受信機のファームウェアのバージョンがV1.00のとき
- 消灯：接続なし



- 接続先機器のバージョンがV1.00のときは、その機器のファームウェアのバージョンアップが必要です。販売店にお問合せください。

⑨ 同期表示灯 [同期]（緑色）

動作設定スイッチの無線同期設定が「メインシステム」または「サブシステム」の場合、受信システム（受信機）間の無線同期の状態を表示します。

- 点灯：同期状態
- 点滅：非同期状態
- 消灯：スタンドアローンシステム（動作設定スイッチの無線同期設定が「スタンドアローンシステム」の場合）



- メインシステム：無線同期して運用する場合に、無線同期の基準となるシステム（受信機）
- サブシステム：無線同期して運用する場合に、メインシステムに無線同期するシステム（受信機）
- スタンドアローンシステム：ほかのシステムと無線同期しないシステム（受信機）

⑩ メインシステム表示灯 [メイン]（緑色）

動作設定スイッチの無線同期設定が「メインシステム」の場合、点灯します。

⑪受信レベル表示灯【受信レベル】

対象チャンネルの、通話状態にあるマイクまたは送信機の電波の受信強度を5段階で表示します。マイクまたは送信機を使用するエリア内で【受信レベル】表示灯が常時3個以上点灯しているようにアンテナ配置、アンテナ・フィールド選択を設定すると安定して運用できます。

点灯（緑色5個）：強電界

点灯（緑色4個）：強～中電界

点灯（緑色3個）：中電界

点灯（緑色2個）：弱電界

点灯（緑色1個）：圏外付近

点灯（赤色1個～5個）

：受信エラー

全消灯：登録されたマイクまたは送信機の電波なし、またはマイクまたは送信機未登録

⑫音声レベル表示灯【音声レベル】

対象チャンネルの、マイクまたは送信機の音声信号レベルを表示します。

点灯（赤色）：ピーク

点灯（橙色）：ピーク付近

点灯（緑色）：音声あり

消灯：音声なし

⑬音量調節つまみ【音量0、10】

対象チャンネルの、マイクまたは送信機の音量を調節します。

⑭マイク電池表示灯【マイク電池】

対象チャンネルの、マイクまたは送信機の電池残量に応じて点灯（緑色／橙色／赤色）します。詳しくは「マイク電池残量を確認する」（55ページ）をお読みください。

⑮登録ボタン

対象チャンネルとマイク、送信機間のペアリング登録に関する操作を行うボタンです。

- ペアリング登録：2秒以上押すとペアリング登録モードに移行します。（49ページ）その後短く押すと、キャンセルします。マイクまたは送信機使用中のチャンネルはペアリング登録モードに移行することはできません。
- ペアリング登録確認：短く1回押すとペアリング登録確認モードに移行します。（56ページ）もう一度短く押すと、キャンセルします。

⑯登録表示灯【登録】

対象チャンネルのペアリング登録モード、ペアリング登録確認モードの状態を表示します。

消灯：通常

点滅（橙色）：ペアリング登録モード

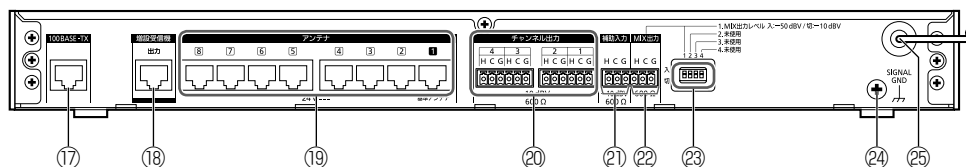
点灯（緑色）（1秒間）：ペアリング登録成功

交互点灯（橙色／緑色）：ペアリング登録確認モード

各部の名前とはたらき

後面

※イラストはWX-SR204を使用しています。



⑰ ネットワーク接続端子 [100BASE-TX]

運用支援ソフトをインストールした設定保守用PCをLANケーブル（カテゴリ-5以上：市販品）で接続します。

⑱ 増設ワイヤレス受信機接続端子 [増設受信機 出力]

本機に増設受信機を接続するときを使用します。
接続にはLANケーブル（21ページ）を使用します。

⑲ ワイヤレスアンテナ接続端子 [アンテナ 1 / 2 / 3 / 4 / 5 / 6 / 7 / 8]

アンテナとの接続端子です。
接続にはLANケーブルを使用します。[アンテナ1]に接続したアンテナは無線同期のための基準アンテナとなります。（36ページ）

⑳ チャンネル出力端子 [チャンネル出力 -10 dBV 600 Ω 1 / 2 / 3 / 4]

各チャンネルの音声を個別に出力します。
WX-SR202 : 1 / 2
WX-SR204 : 1 / 2 / 3 / 4

㉑ 補助入力端子 [補助入力 -10 dBV 600 Ω]

増設受信機の [MIX出力] 端子と接続します。
増設受信機の音声とミキシングしたいときに使用します。

㉒ ミキシング出力端子 [MIX出力 600 Ω]

各チャンネルの音声と [補助入力] 端子から入力された音声をミキシングした出力が得られます。
ミキシング出力レベル切換スイッチで出力レベルを切り換えることができます。

㉓ ミキシング出力レベル切換スイッチ [1.MIX出力レベル 入：-50 dBV / 切：-10 dBV]

ミキシング出力端子の音声出力レベルを切り換えるスイッチです。
入：-50 dBV
切：-10 dBV（工場出荷設定）
（スイッチNo.2、No.3、No.4は未使用です。）

㉔ SIGNAL GND端子 [SIGNAL GND]

ほかの機器と電位差をなくすために必要に応じて各機器のSIGNAL GNDと接続します。

㉕ 電源コード

AC100 V 50 Hzまたは60 Hzに接続してください。

設置のしかた

■ 設置上のお願ひ



- 工事は必ず販売店に依頼してください。
- 工事を行う前に、接続する機器の〔電源〕スイッチを「切」にしてください。
- 「安全上のご注意」をよく読んでその指示にしたがってください。接続する機器の取扱説明書も必ずお読みください。

設置工事は電気設備技術基準に従って実施してください。

本機は屋内専用です

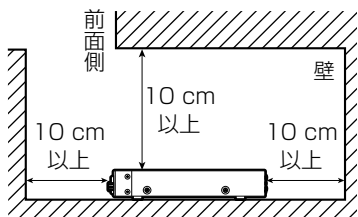
- 屋外での使用はできません。
長時間直射日光のあたるところや、冷・暖房機の近くには設置しないでください。変形・変色または故障・誤動作の原因になります。また、水滴または水沫のかからない状態で使用してください。

工事は電源を入れないで行ってください

- 工事は、本機の電源プラグをコンセントから抜いて行ってください。また本機に接続されているミキサーやアンプなどの電源も切ってから行ってください。接続時にスピーカーから大きなノイズが出て、機器の破損につながります。

設置場所について

- 本機は発熱量が非常に多い機器です。
壁や天井などの付近に設置する場合は本機の周囲から10 cm以上離して設置してください（下図参照）。



- 水平な場所へ設置してください。後面を下にして立てないでください。

設置のしかた

以下の場所には設置しないでください

- 直射日光のあたる場所や温風吹き出し口の近く
- 湿気やほこり、振動の多い場所
- 結露しやすい場所、温度差の激しい場所、水気（湿度）の多い場所
- ちゅう房など蒸気や油分の多い場所
- スピーカーやテレビ、磁石など、強い磁力を発生するものの近く
- 傾斜のある場所
- 塩害や腐食性ガスが発生する場所
- 本機、ケーブルなどが容易に破壊されるような場所

ラックに取り付けるときは

- 本機をラックに取り付ける場合は、必ず「ラックへの取り付けかた」（22ページ）記載のものをご使用ください。
- ラック内の温度が+45℃を超えないようにしてください。内部の部品に悪影響を与え、故障の原因となります。
- 本機は、できるだけラック下側に取り付けてください。

使用電源は

- 電源電圧はAC100V（50Hz/60Hz）です。十分な容量のある電源に接続してください。

電源について

- 本機は電源スイッチを「切」にただけでは電源は遮断されません。容易に電源を遮断できるように、電源コードは、必ず遮断装置を介した次のいずれかの方法で接続してください。
 - 電源コンセントやブレーカーの近くに設置し、電源プラグを介して接続する。
 - 3.0mm以上の接点距離を有する分電盤のブレーカーに接続する。ブレーカーは、保護アース導体を除く電源のすべての極が遮断できるものを使用すること。

静電気について

- 静電気による損傷を防止するために、設置工事の前に、アースの取れた金属製のものに触れて身体に帯電した静電気を放電してください。

ねじの締め付けについて

- ねじはまっすぐ締めてください。締めたあとは、目視にて、がたつきがなく、しっかりと締められていることを確認してください。
- インパクトドライバーや電動ドライバーは、クラッチ付のものであってもトルク管理が困難なため、使用すると取り付け部の破損の原因になりますので、使用しないでください。

強い衝撃を与えない

- 本機に強い衝撃を与えないでください。本機が破損するおそれがあります。

LANケーブルについて

- ケーブルは付属していません。
カテゴリ5（またはカテゴリ5e、カテゴリ6）ストレート結線のネットワークLAN対応のケーブルを別途ご用意ください。ケーブルの長さには制限があり、接続のしかたにより異なります。詳しくは「接続のしかた」（24、29ページ）をお読みください。

設置のしかた

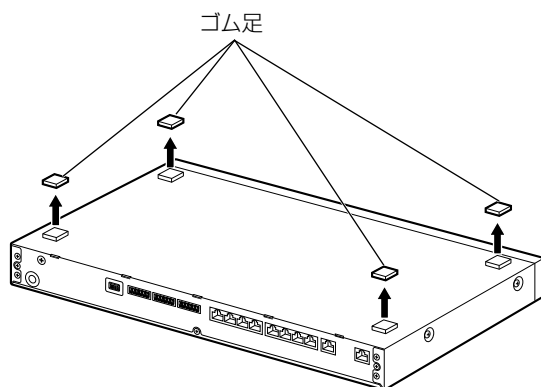
■ ラックへの取り付けかた

本機は、ラックに取り付けて使用できます。

本機を取り付けるラック（別売品）は、次のいずれかを使用してください。

- スタンダードラック : WU-RS80 収納ユニット数29U（当社製）
 - 従来品のWU-RS71もお使いいただけます。
- ロングラック : WU-RL85 収納ユニット数41U（当社製）
 - 従来品のWU-RL76もお使いいただけます。
- EIA規格相当品 : EIA19型、奥行き450 mm以上のもの

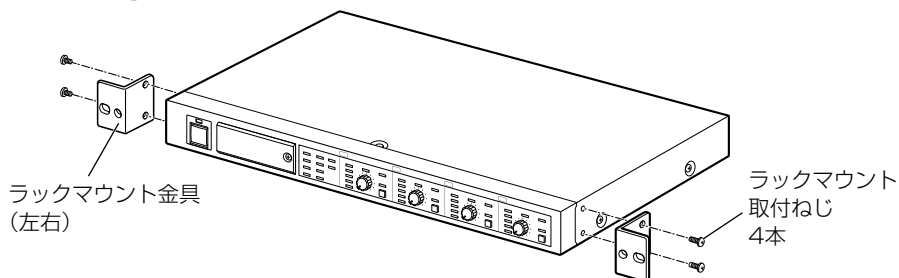
1 本機底面のゴム足（4個）を取り外す



※イラストはWX-SR204を使用しています。

2 本機両側面に付属のラックマウント金具を付属のラックマウント取付ねじ（4本）で取り付ける

- ラックマウント取付ねじ締付トルク : $0.88 \text{ N}\cdot\text{m} \sim 1.08 \text{ N}\cdot\text{m}$ ($9.0 \text{ kgf}\cdot\text{cm} \sim 11.0 \text{ kgf}\cdot\text{cm}$)

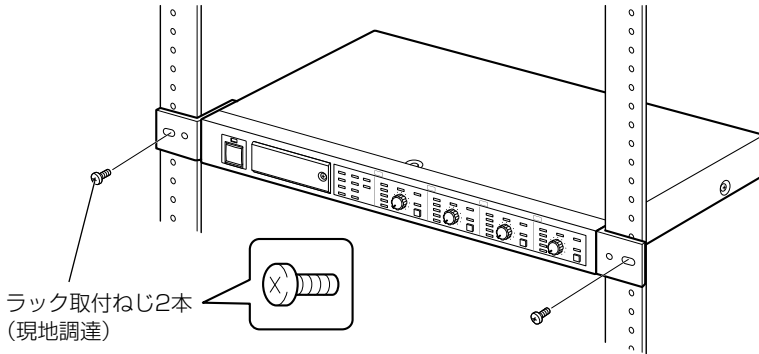


※イラストはWX-SR204を使用しています。

3 本機をラックに取り付ける

ラック取付ねじ（2本）で確実に固定してください。

- ラック取付ねじ締付トルク：2.0 N・m～2.4 N・m（20.5 kgf・cm～24.5 kgf・cm）



ラック取付ねじ2本
(現地調達)

※イラストはWX-SR204を使用しています。

ラック取付ねじ推奨品：YBSNG003（株式会社ワイ・ビー・エス製）



重要

- ラック内の温度は、+45℃以上にならないようにしてください。
- 本機は発熱量の多い機器（電力増幅ユニットやパワーアンプなど）の近くに設置しないでください。
やむをえず、近くに設置する場合は、上下に1U（44 mm）以上の間隔をあけてください。
- 熱に弱い機器を同じラックに取り付けるときは、本機より下側に取り付けてください。
- ラックは通気性の良い場所に設置してください。ラック内に熱がこもるときはラック内の温度が+45℃以上にならないように換気対策を行ってください。

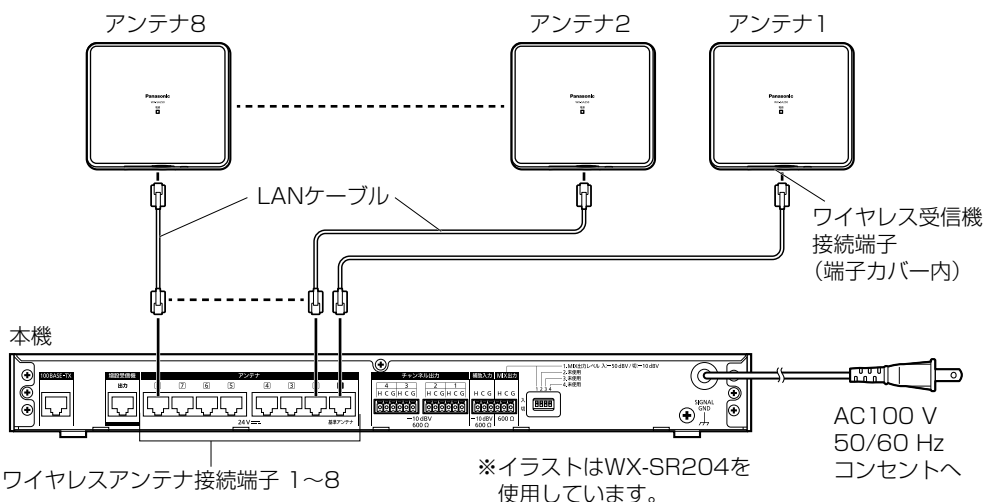
接続のしかた

■ アンテナとの接続

アンテナを8台まで接続できます。

ワイヤレスアンテナ接続端子〔アンテナ1〕は受信システム（受信機）間の無線同期のための基準アンテナを接続する端子になります。無線同期設定（43ページ）で「メインシステム」もしくは「サブシステム」に設定した場合は必ず基準アンテナを接続してください。

1 本機の「ワイヤレスアンテナ接続端子」とアンテナの「ワイヤレス受信機接続端子」をLANケーブル（21ページ）で接続する



- 本機のワイヤレスアンテナ接続端子の仕様は本機専用となっています。PoE給電装置（給電機能付きハブもしくはルーター）には接続しないでください。故障の原因となります。
- 本機とアンテナは必ずストレートケーブルで接続してください。クロスケーブルで接続すると故障の原因となります。
- 本機をメインシステムまたはサブシステムとして使用する場合は基準アンテナが必要です。



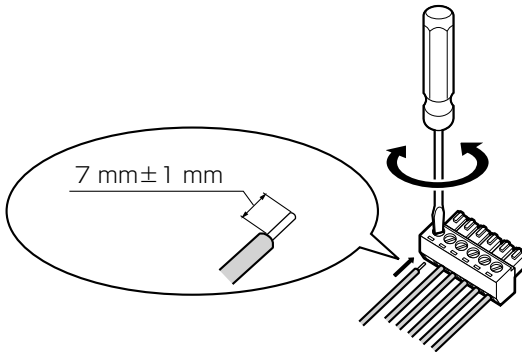
- LANケーブルは200 m 以内のものを使用してください。
- 無線同期設定で本機をメインシステムとして使用する場合、ワイヤレスアンテナ接続端子〔アンテナ1〕に接続した基準アンテナにアンテナ給電ユニットを接続すると受信機の電源「入/切」に関わらず、基準アンテナが常時通電されるため、受信システム間無線同期を安定的に運用できます。アンテナ給電ユニットとの接続に関してはアンテナ給電ユニットの取扱説明書をお読みください。

■ ユーロブロックコネクターの接続

本機の音声の入力端子、出力端子は着脱可能なユーロブロックコネクターを使用しています。

1 付属のユーロブロックコネクターに線材を接続する

マイナスドライバーを使用して、付属のユーロブロックコネクターのねじを緩め、線材の被覆をはがし、導体をしっかりよってから、先端をユーロブロックコネクターに差し込み、ユーロブロックコネクターのねじを締めます。



ケーブルの加工

- 推奨線材：AWG28～AWG16（はんだ上げ線は使用しないでください）
- 剥離する被覆の長さ：7 mm ± 1 mm
- ねじの直径：φ2 mm
- 線材が確実に接続されていることを確認してください。

接続のしかた

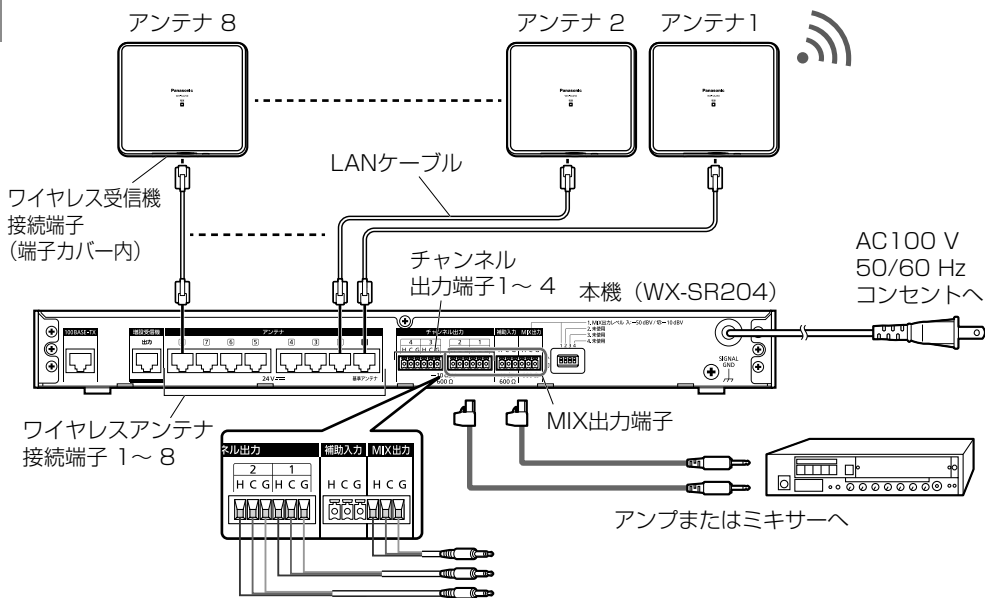
■ 音声出力の接続

各チャンネルのマイクまたは送信機の音声を個別に、または各チャンネルのマイクまたは送信機の音声をミキシングしたものを、アンプ（またはミキサー）に出力することができます。

本機の [チャンネル出力] 端子、または [MIX出力] 端子にアンプなどの外部機器を接続します。

1 ユーロブロックコネクタにケーブルを接続する

付属のユーロブロックコネクタ（6ピン）にケーブルを接続し、本機の [チャンネル出力] 端子、または [MIX出力] 端子に接続します。[チャンネル出力] 端子はユーロブロックコネクタ1個で2チャンネル分出力でき、WX-SR204ではユーロブロックコネクタ2個で4チャンネル分出力できます。



- 本体にしっかりユーロブロックコネクタを装着します。
- 各チャンネルの音声を個別にアンプ（またはミキサー）に接続する場合は、本機の [チャンネル出力] 端子を使用してください。
- 各チャンネルの音声をミキシングした出力をアンプ（またはミキサー）に接続する場合は、[MIX出力] 端子を使用してください。

■ 増設受信機の接続

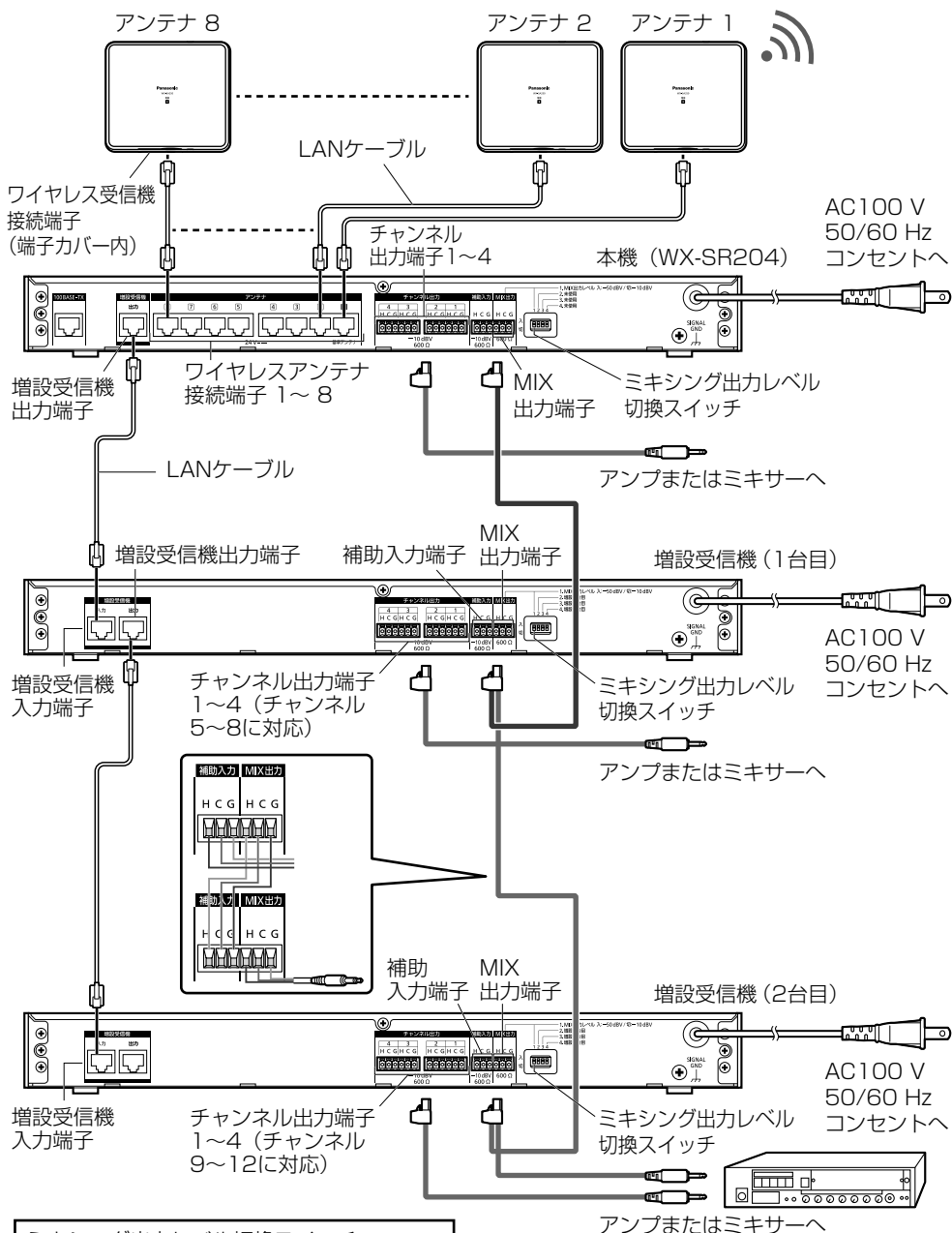
本機に増設受信機を1台接続することにより、同時使用できるチャンネル（マイク）を4チャンネル（マイクまたは送信機4本）追加することができます。増設受信機はカスケード接続で3台まで接続でき、2チャンネルモデルWX-SR202では最大14チャンネル（マイクまたは送信機14本）、4チャンネルモデルWX-SR204では最大16チャンネル（マイクまたは送信機16本）を同時使用することができます。

1 本機と増設受信機（および増設受信機間）をLANケーブル（21ページ）で接続する

本機の [増設受信機 出力] 端子と増設受信機の [増設受信機 入力] 端子をLANケーブルで接続します。さらに増設受信機を接続する場合は、1台目の増設受信機の [増設受信機 出力] 端子と2台目の増設受信機の [増設受信機 入力] 端子、2台目の増設受信機の [増設受信機 出力] 端子と3台目の増設受信機の [増設受信機 入力] 端子を接続します。

接続のしかた

設置・設定



ミキシング出力レベル切換スイッチ
補助入力端子へ接続する場合：-10 dBV



重要

- 本機の増設受信機出力端子の仕様は本機専用となっています。PoE給電装置（給電機能付きハブもしくはルーター）には接続しないでください。故障の原因となります。
- 本機と増設受信機間および増設受信機と増設受信機間は必ずストレートケーブルで接続してください。クロスケーブルで接続すると故障の原因となります。



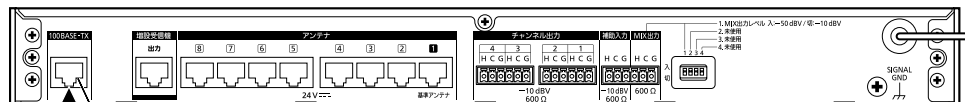
- 本機と増設受信機間、および増設受信機と増設受信機間の接続はLANケーブルで0.5 m以内のものを使用してください。
- 増設受信機各チャンネルのマイク出力または送信機出力を個別にアンプ（またはミキサー）に接続する場合は、増設受信機の「チャンネル出力」端子を使用してください。
- 増設受信機各チャンネルのマイクまたは送信機、および増設受信機の「補助入力」端子への音声入力のミキシング出力をアンプ（またはミキサー）に接続する場合は、増設受信機の「MIX出力」端子を使用してください。
- 本機と増設受信機間、および増設受信機と増設受信機間で「MIX出力」端子を次の増設受信機（あるいは本機）の「補助入力」端子へカスケードに接続することにより、すべてのチャンネルの音声をミキシングすることができます。「MIX出力」端子を「補助入力」端子に接続する場合、出力側のミキシング出力レベル切換スイッチ（18ページ）を「-10 dBV」に設定してください。

接続のしかた

■ 設定保守用PCとの接続

本機の [100BASE-TX] 端子と運用支援ソフトをインストールしたPCをLANケーブル (カテゴリ5以上：市販品) で接続します。

本機 (後面)

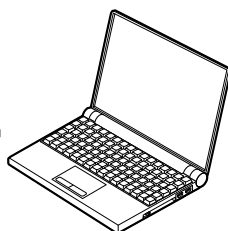


※イラストはWX-SR204を使用しています。

設置・設定

ネットワーク接続端子

LANケーブル



運用支援ソフト
インストールPC

■ マイク、送信機との接続

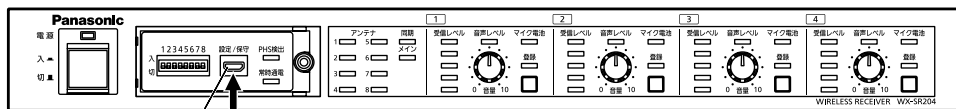
本機の〔設定/保守〕端子とマイクまたは送信機の〔設定/保守〕端子を変換ケーブル（マイクロBオス-タイプAメス）（市販品）およびUSB2.0ケーブル（タイプAオス-マイクロBオス）（市販品）で接続します。

本機にマイクまたは送信機を有線でペアリング登録する際に必要です。詳しくは「有線ペアリング」（51ページ）をお読みください。

ケーブル接続時、必ず変換ケーブルが本機側になるようにしてください。逆に接続すると登録できません。

マイクまたは送信機の〔設定/保守〕端子に関してはマイクまたは送信機の取扱説明書をお読みください。

本機



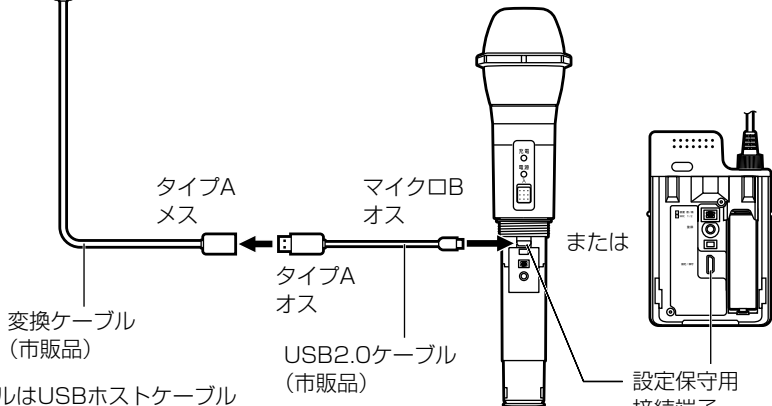
設定保守用
接続端子

※イラストはWX-SR204を使用しています。
スイッチカバーを外したときのイラストです。

マイクロB
オス

WX-ST200

WX-ST400



変換ケーブル
(市販品)

タイプA
メス

マイクロB
オス

タイプA
オス

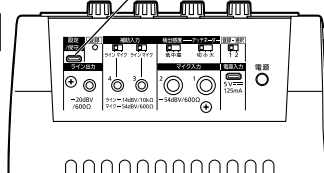
USB2.0ケーブル
(市販品)

または

設定保守用
接続端子

※変換ケーブルはUSBホストケーブル
(OTGケーブル) を使用してください。

WX-ST510



アンテナの設置のしかた

■ はじめに

本項ではアンテナ設置時の配置・設定の考えかたについて記載します。具体的な取り付け方法に関してはワイヤレスアンテナ（WX-SA250）の取扱説明書をお読みください。

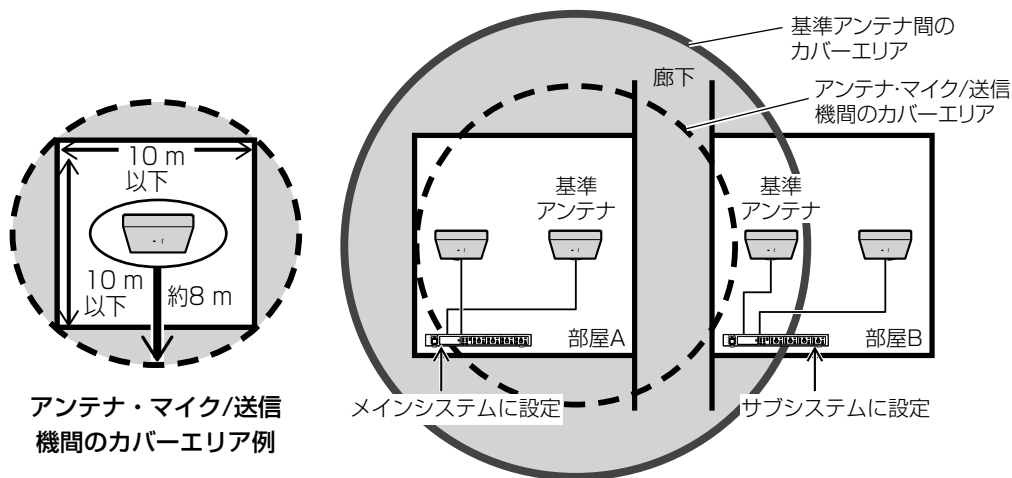
■ アンテナの無線出力レベルと配置について

アンテナの無線出力レベル（アンテナ・フィールド選択）について

- アンテナの無線出力レベル（アンテナ・フィールド選択）はアンテナを設置する建物の広さや階層に合わせて設定します。アンテナ・フィールド選択はアンテナを設置後に受信機または設定保守用PCで設定します。詳しくは41ページをお読みください。

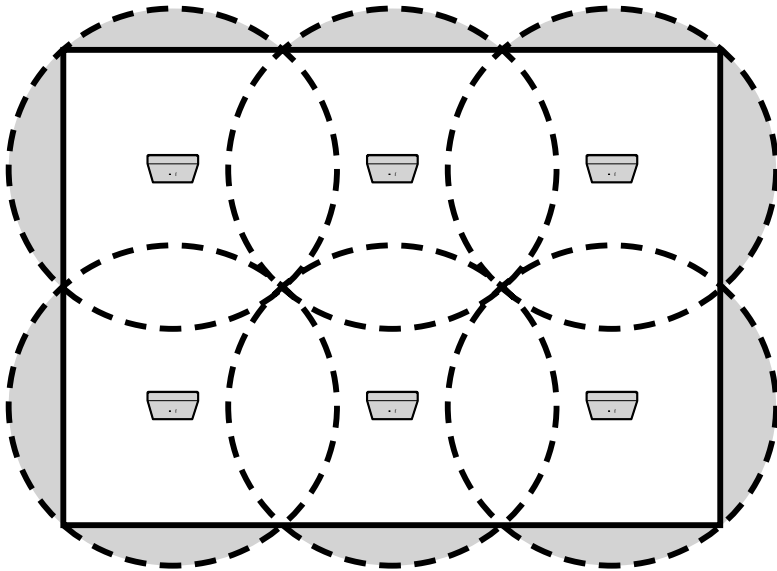
アンテナ・フィールド選択	無線到達距離（アンテナ・マイク/送信機間のカバーエリア）の目安	メインシステム基準アンテナの無線到達距離（基準アンテナ間のカバーエリア）の目安
小	半径約8 m（工場出荷設定）	半径約30 m
中	半径約15 m	半径約40 m
大	半径約30 m	半径約60 m
最大*	半径約40 m	

※ 設定保守用PCの運用支援ソフトでのみ設定可能



アンテナ配置の考えかた（同一の受信機に接続されたアンテナの配置）

- アンテナの配置はアンテナを中心としたカバーエリアの円（または相当するカバーエリアの正方形）で、マイクまたは送信機を使用するエリアを分割して、全体をカバーできるようにします。
- 隣接するアンテナのカバーエリアを重なるように配置することで、マイクまたは送信機が移動した場合でも、複数のアンテナのカバーエリア間で、拡声を継続（ハンドオーバー）することができます。

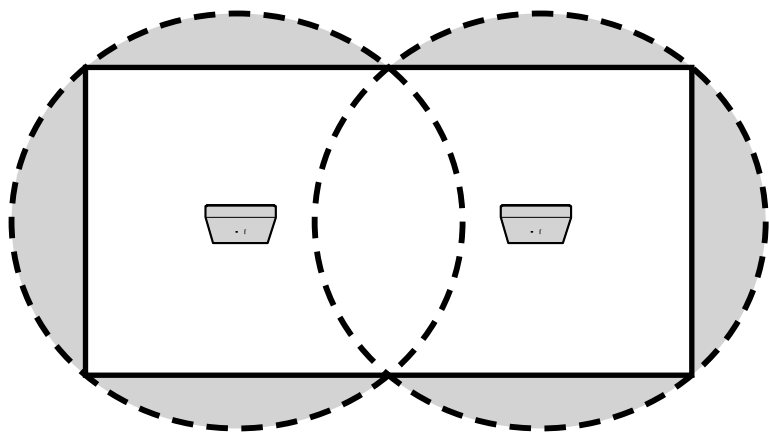


天井設置（天井側から下を見た図）

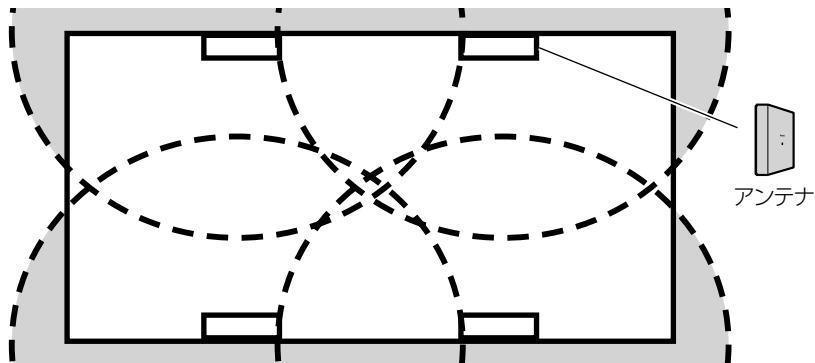
アンテナの設置のしかた

壁掛け設置の場合

- アンテナは天井設置のほかに壁に設置することができます。
- 壁に設置する場合は、天井に設置する場合と比較して対象の部屋の中でカバーできるエリアの面積は半分となります。天井に設置する場合と同じエリアを確保するには、反対側の壁にも同数のアンテナを設置する必要があります。



天井設置

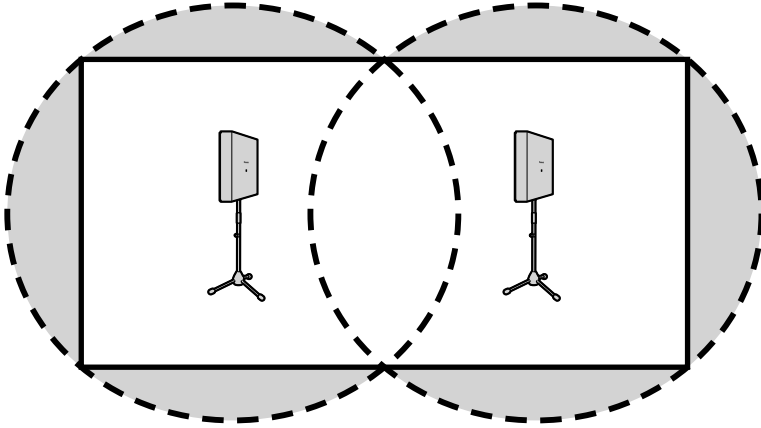


壁掛け設置

- 壁の厚さ、材質によっては壁の反対側に電波が透過する場合があります。隣接する部屋で複数のシステムを運用する場合、壁の厚さ、材質によっては、円状のカバーエリアで電波の干渉を考える必要があります。

マイクスタンド取り付けの場合

- マイクスタンド取り付けの場合は、天井に設置する場合と同様に円状のカバーエリアで、考慮してください。



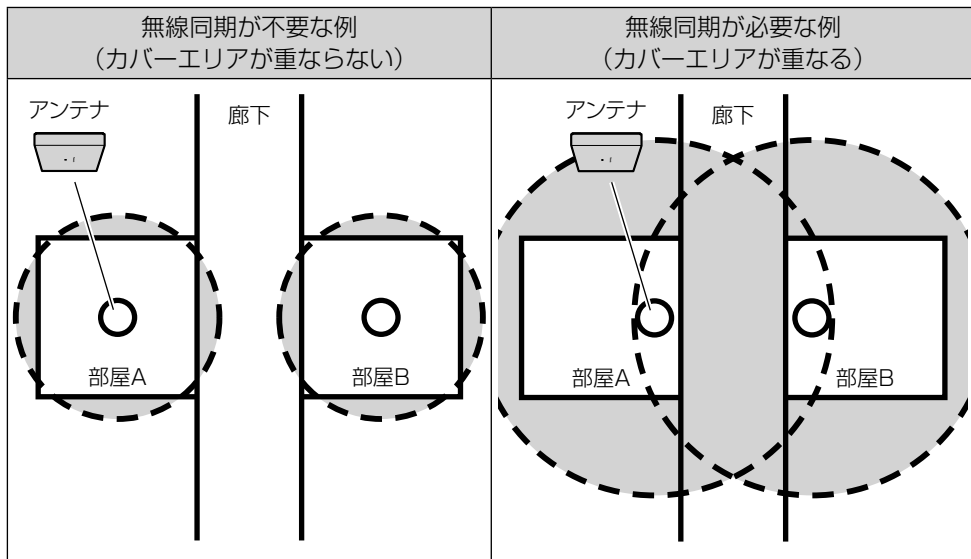
マイクスタンド取り付け

アンテナの設置のしかた

■ 複数の受信システムの運用について

無線同期の考えかた

- 異なる受信システムのアンテナ（異なる受信機に接続されたアンテナ）の電波が互いに届く（アンテナのカバーエリアが重なる）場合には、電波の干渉による使用マイク数の制限や音途切れを防ぐために互いの受信システムを無線同期する必要があります。

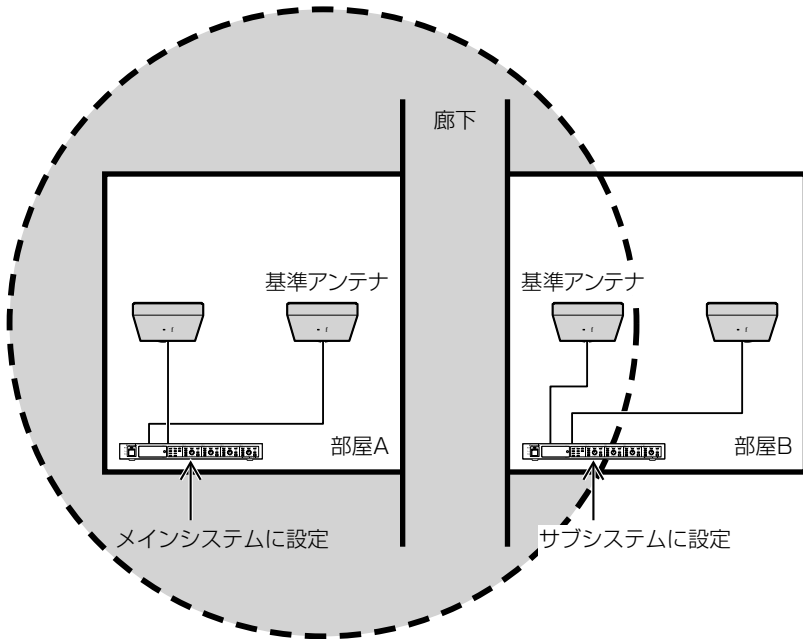


※各部屋には異なる受信システム（受信機）を設置



- メインシステム：
無線同期して運用する場合に、無線同期の基準となるシステム（受信機）（37ページ）
- サブシステム：
無線同期して運用する場合に、メインシステムに無線同期するシステム（受信機）（37ページ）
- 基準アンテナ：
メインシステムおよびサブシステムのアンテナ接続端子 [アンテナ1] に接続したアンテナ。ほかのシステムと無線同期するためのアンテナです。（37ページ）
- 同期専用アンテナ：
受信機に接続せず、アンテナ給電ユニットのみを接続したアンテナ。メインシステムの基準アンテナと同様に、無線同期の基準となります。（39ページ）

- 無線同期する場合、1つの受信システム（受信機）を無線同期の基準となるメインシステムに設定し、ほかのシステムをサブシステムに設定します。
- メインシステムの基準アンテナ（受信機のワイヤレスアンテナ接続端子 [アンテナ1] に接続したアンテナ）とサブシステムの基準アンテナが通信を行うことによって、無線同期を行います。
- メインシステムの基準アンテナは、ほかのすべての基準アンテナを覆うように32ページのカバーエリアを参考にしてアンテナ・フィールド選択を設定してください。
- サブシステムの基準アンテナおよびほかのアンテナは、ほかのシステムへの影響を低減するため、33ページのアンテナの配置のしかたに沿ってアンテナ・フィールド選択を設定してください。



無線同期の例

- メインシステムの基準アンテナは、常時通電が必要となります。アンテナ給電ユニットを使用することで受信機を常時通電しなくても、メインシステムの基準アンテナのみを常時通電することが可能となります。

アンテナの設置のしかた

無線同期の例（1つの受信システムをメインシステムとする場合）

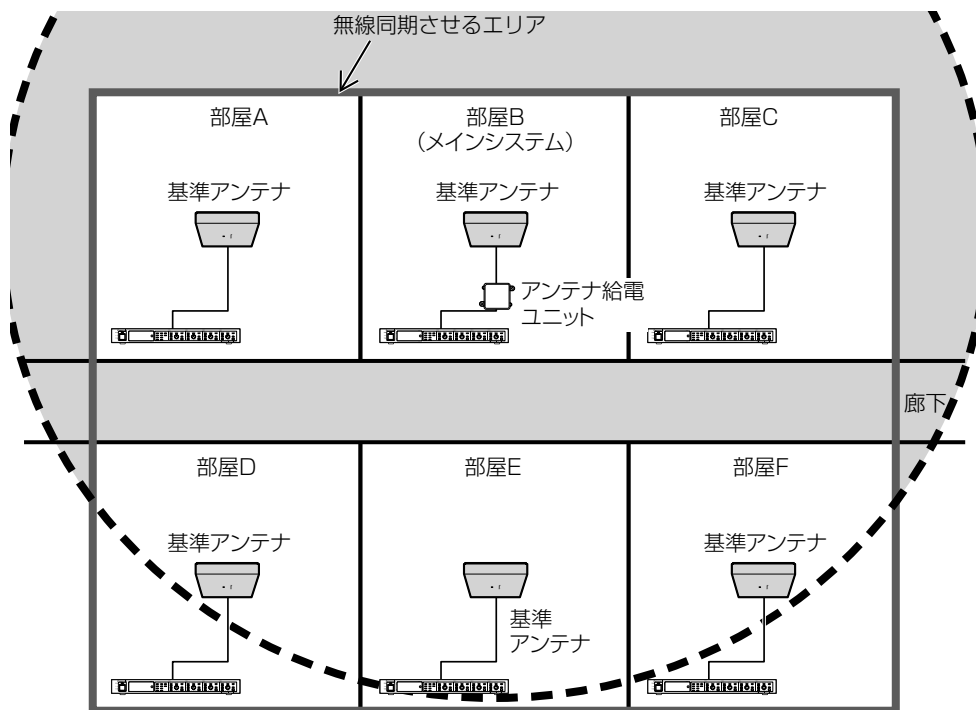
- 無線同期設定を「メインシステム」に設定した受信機の基準アンテナを無線同期させるエリアの中心付近に設置してください。
- メインシステムの基準アンテナは常時通電させる必要があります。メインシステムの受信機を常時通電するか、基準アンテナにアンテナ給電ユニットを接続して運用してください。



重要

- アンテナ給電ユニットは、以下のアンテナに接続して運用してください。
 - ・ 同期専用アンテナ
 - ・ メインシステムの基準アンテナ
- 上記以外のアンテナには給電ユニットを接続しないでください。接続した場合はアンテナとして正常に動作しませんのでご注意ください。

- 無線同期させる受信機の無線同期設定は「サブシステム」に設定してください。



複数システムの無線同期の例

(部屋Bの受信機をメインシステムとし、それ以外をサブシステムとする場合)

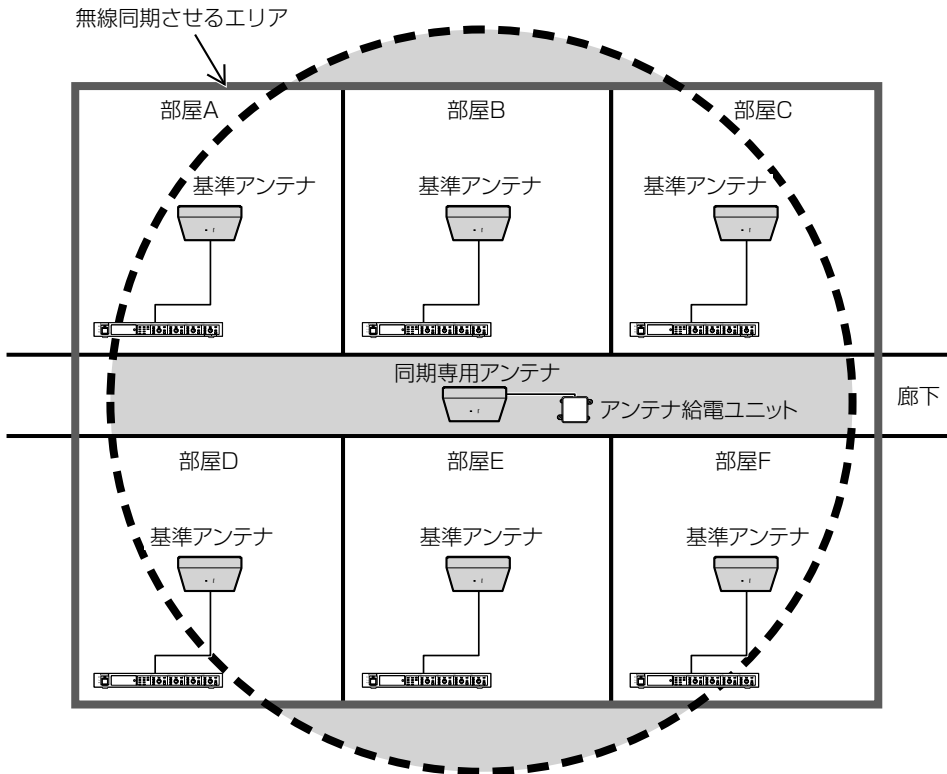
無線同期の例（同期専用アンテナを用い、すべての受信システムをサブシステムとする場合）

- 同期専用アンテナとして、アンテナ給電ユニットのみに接続したアンテナを無線同期させるエリアの中心付近に設置してください。
- 同期専用アンテナは常時通電させる必要があります。アンテナ給電ユニットの電源を常時通電させてください。



- **重要** アンテナ給電ユニットは、以下のアンテナに接続して運用してください。
 - ・ 同期専用アンテナ
 - ・ メインシステムの基準アンテナ
- 上記以外のアンテナには給電ユニットを接続しないでください。接続した場合はアンテナとして正常に動作しませんのでご注意ください。

- 無線同期させる受信機の無線同期設定は「サブシステム」に設定してください。

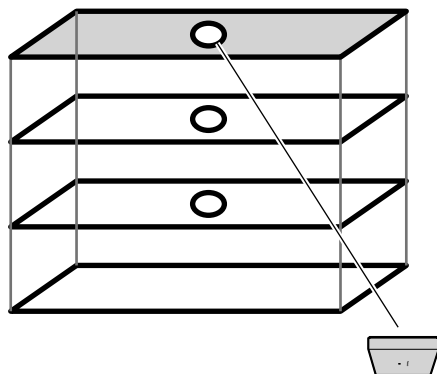


複数システムの無線同期の例
 (同期専用アンテナを用い、すべての受信機をサブシステムとする場合)

アンテナの設置のしかた

多層階に設置する場合

- 多層階に設置する場合は各フロアごとに無線同期させてください。
- メインシステムの基準アンテナもしくは同期専用アンテナは各フロアの中央付近に設置してください。
- メインシステムの基準アンテナのカバーエリアは、それに同期させるすべてのサブシステムの基準アンテナをカバーするように、32ページのカバーエリアを参考にしてアンテナ・フィールド選択を設定してください。
- メインシステムの基準アンテナ以外のアンテナおよびサブシステムのアンテナは、ほかのシステムへの影響を低減するため、33ページのアンテナ配置にしたがってアンテナ・フィールド選択を設定してください。



各フロアのメインシステムの基準アンテナ
または同期専用アンテナ

設定のしかた

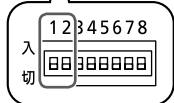
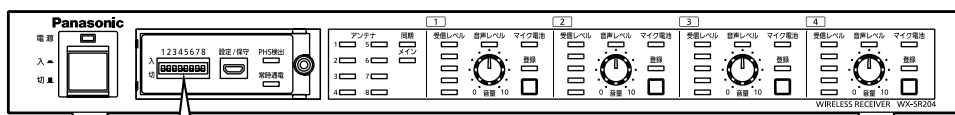
■ アンテナ・フィールド選択

動作設定スイッチのNo.1およびNo.2で、本機に接続されているアンテナの無線出力レベルを設定、または設定保守用PCから個別設定できます。無線出力（アンテナ・フィールド選択）は、使用環境に合わせて適切な設定をしてください。

アンテナ・フィールド選択を「小／中／大」に設定すると本機に接続されているすべてのアンテナのフィールド選択が一律に設定されます。

アンテナ個別に設定する場合は「個別設定」に設定し、設定保守用PCの運用支援ソフトで設定してください。

本機



動作設定スイッチ

※イラストはWX-SR204を使用しています。
スイッチカバーを外したときのイラストです。

動作設定スイッチ番号		アンテナ・フィールド選択	無線到達距離（カバーエリア）の目安*	メインシステム基準アンテナの無線到達距離（カバーエリア）の目安
No.1	No.2			
切	切	小（工場出荷設定）	半径約8 m	半径約30 m
切	入	中	半径約15 m	半径約40 m
入	切	大	半径約30 m	半径約60 m
入	入	個別設定	—	—

※ アンテナとマイクまたは送信機間の無線到達距離の目安、また、同期動作する複数の基準アンテナ間の無線到達距離の目安ともなります。詳しくは「無線同期設定」（43ページ）もお読みください。



●重要

- 動作設定スイッチの設定は本機の電源起動時に反映されます。電源「入」中に設定変更した場合は、一度本機の電源を「切」にしてから再度「入」にして、再起動してください。
- 本機にアンテナ給電ユニットを介してアンテナを接続して使用する場合、一度、本機の電源が「入」になると、アンテナの電源が「切」になるまで、本機で設定したアンテナ・フィールド選択の設定が保持され、アンテナ給電ユニットのアンテナ・フィールド選択設定スイッチの設定は無効となります。
- 停電などでアンテナ給電ユニットの電源供給が遮断されるなどして、一時的にアンテナの電源が「切」になると、再度、本機の電源が「入」になるまで、アンテナはアンテナ給電ユニットのアンテナ・フィールド選択設定スイッチの設定で動作します。
- アンテナ給電ユニットの取扱説明書もあわせてお読みください。



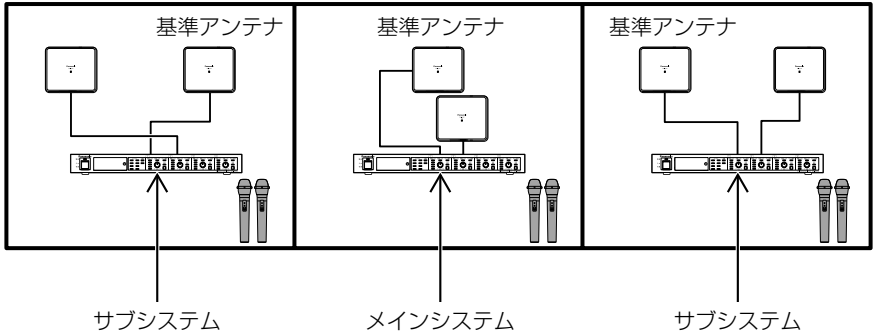
- 無線出力が強すぎると、電波干渉をおこすことがあります。その場合は、使用場所で音途切れがないことを確認したうえで、無線出力（アンテナ・フィールド選択）の設定を可能な限り下げてください。
- アンテナ・フィールド選択設定で「個別設定」を選択すると、設定保守用PCから各アンテナ個別に無線出力を設定できます。詳しくは運用支援ソフトの取扱説明書をお読みください。

■ 無線同期設定

同一フロアや近隣で複数の受信システム（受信機）をお使いの場合、受信システム間の無線同期を有効にすることで、ほかの1.9 GHzデジタルワイヤレスシステムからの干渉を低減できます。

1 同期動作する場合に、メインシステムとなる受信機を決める

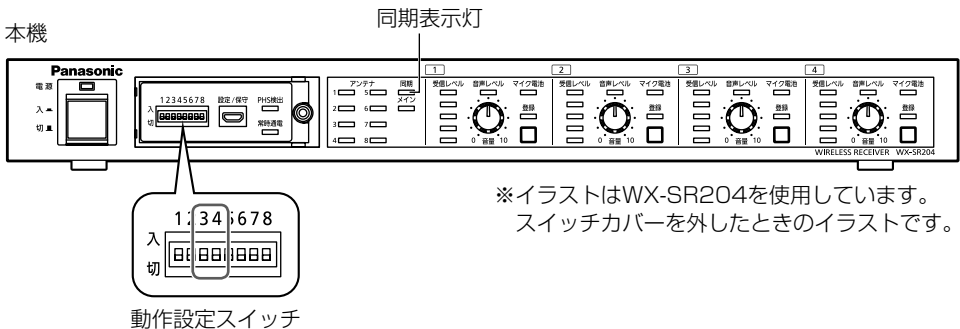
【例】複数の隣接する部屋それぞれに設置されている受信システム（受信機）間で無線同期させる場合



中央の部屋にある受信システム（受信機）をメインシステムとして、無線同期設定を「メインシステム」に設定します。

無線同期させる、そのほかの受信システム（受信機）はサブシステムとして、無線同期設定を「サブシステム」に設定します。

サブシステムの基準アンテナは無線同期させるメインシステムの基準アンテナと無線通信できる距離に配置する必要があります。アンテナの無線到達距離の目安に関しては「アンテナの設置のしかた」（32ページ）、「アンテナ・フィールド選択」（41ページ）をお読みください。



※イラストはWX-SR204を使用しています。
スイッチカバーを外したときのイラストです。

設定のしかた

動作設定スイッチ番号		無線同期設定
No.3	No.4	
切	切	スタンドアローンシステム（無線同期しない）
切	入	スタンドアローンシステム（無線同期しない）
入	切	サブシステム（無線同期する）（工場出荷設定）
入	入	メインシステム



重要

- 動作設定スイッチの設定は本機の電源起動時に反映されます。電源「入」中に設定変更した場合は、一度本機の電源を「切」にしてから再度「入」にして、再起動してください。
- 受信機1台を使用する受信システムで、同一フロアや近隣にDECTシステムがない場合、無線同期は不要です。スタンドアローンでお使いください。
- 受信システム（受信機）間の無線同期において、受信機後面の〔アンテナ1〕端子に接続されているアンテナが対象受信システムの基準アンテナになります。
- メインシステムに設定された受信機の基準アンテナはほかのサブシステムへ向けた受信システム間無線同期の基準となるアンテナとなります。受信機後面の〔アンテナ1〕端子にアンテナが接続されていない場合は、本受信システムはスタンドアローンシステムとなり、ほかの受信システムと無線同期しません。
- サブシステムに設定された受信機の基準アンテナは、ほかのメインシステムに無線同期するための基準となるアンテナとなります。サブシステムに設定された受信機が起動する際、ほかに動作しているメインシステムが存在し、かつその電波が自システムの基準アンテナで受信可能な場合に、そのメインシステムに無線同期し、可能な限り同期し続けます。サブシステムに設定された受信機が起動する際、ほかに動作しているメインシステムが見つからない場合は、本受信システムはスタンドアローンシステムとなり、ほかの受信システムと無線同期しません。また、受信機後面の〔アンテナ1〕端子にアンテナが接続されていない場合も、本受信システムはスタンドアローンシステムとなり、ほかの受信システムと無線同期しません。
- サブシステムが複数ある場合は、すべてのサブシステムの基準アンテナをカバーするように32ページのカバーエリアを参考にメインシステムの基準アンテナのアンテナ・フィールド選択を設定してください。

**重要**

- アンテナにアンテナ給電ユニットが接続されていて、かつそのアンテナ給電ユニットに受信機の接続がない場合、そのアンテナは起動すると単独でメインシステムの基準アンテナに相当する同期専用アンテナとなります。
サブシステムが複数ある場合は、すべてのサブシステムの基準アンテナをカバーするように32ページのカバーエリアを参考にアンテナ給電ユニットのアンテナ・フィールド選択を設定してください。
- アンテナ給電ユニットの取扱説明書もあわせてお読みください。

2 受信システム（受信機）間無線同期を取る

アンテナおよび受信機の取り付け、接続のあと、受信システム（受信機）間の無線同期を取ります。

アンテナ給電ユニットを使用しない場合、すべての受信機の電源を「切」にした状態から、

- ①メインシステムに設定された受信機の電源を「入」にします。
- ②サブシステムに設定された受信機の電源を「入」にします。

サブシステムの基準アンテナは自動的にメインシステムの基準アンテナを探して無線同期します。

サブシステムの基準アンテナは、電源起動時のみメインシステムの基準アンテナを探すため、無線同期設定時はサブシステムよりもメインシステムを先に電源起動する必要があります。

受信システム（受信機）間無線同期をさせて運用する場合は、アンテナ給電ユニットを使用するなどしてメインシステムの基準アンテナを常時通電するか、メインシステムの電源をサブシステムの電源より先に立ち上げるように運用してください。

設定のしかた

受信機の [同期] 表示灯および [メイン] 表示灯の表示

同期表示灯	メイン表示灯	対象システムの無線同期設定	メインシステムとの同期状態
点灯	点灯	メインシステム	—
点灯	消灯	サブシステム	同期状態
点滅	消灯	サブシステム	非同期状態
消灯	消灯	スタンドアローンシステム	—



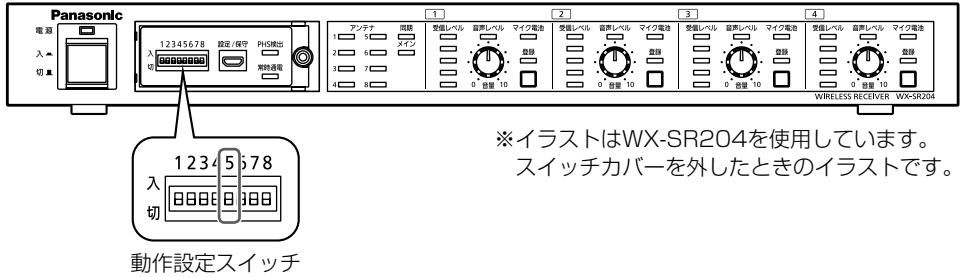
- 受信システム間で同期が取れない場合や同期が外れた場合には、音途切れが発生する可能性があります。
音途切れが発生するときは、サブシステムの受信機の電源を一度「切」にしてから再度「入」にして再起動してください。また、受信機の無線出力設定は「アンテナ・フィールド選択」(41ページ)を参考に下記の要領で設定してください。
 - メインシステムの基準アンテナあるいは同期専用アンテナの無線出力設定(アンテナ・フィールド選択)はすべてのサブシステムの基準アンテナをカバーできるように32ページを参考に設定してください。そのほかのアンテナの無線出力設定(アンテナ・フィールド選択)は、運用する範囲をカバーする設定にします。
 - 複数の無線同期させる受信システムがある場合、上記内容の調節を無線同期させるシステムごとに行ってください。
- パーティションなどで大空間を複数の部屋に仕切って使用する場合、パーティションで仕切られるブロックごとにアンテナを1台以上設置してください。
- 無線同期設定を行わない場合は、本機の動作設定スイッチNo.3を「切」(スタンドアローンシステム)に設定してお使いください。(工場出荷設定はNo.3が「入」、No.4が「切」です。) No.3を「入」、No.4を「切」(サブシステム)に設定すると、サブシステムの受信機は自動的にメインシステムの基準アンテナあるいは同期専用アンテナを探して無線同期を取ろうとするので、起動までの時間が長くなります。

■ マイク電池設定

動作設定スイッチのNo.5で、本機および本機に接続された増設ワイヤレス受信機で使用するマイクの電池タイプを設定します。

マイクの電池残量（55ページ）を的確に把握するため、必ずマイク電池設定を実施してください。

本機



動作設定スイッチ番号	マイク電池設定
No.5	
切	ニッケル水素電池（工場出荷設定）
入	アルカリ乾電池



重要

- 動作設定スイッチの設定は本機の電源起動時に反映されます。電源「入」中に設定変更した場合は、一度本機の電源を「切」にしてから再度「入」にして、再起動してください。



- マイク電池設定は1つの受信システム（対象の受信機およびそれに接続された増設受信機）に登録されているすべてのマイクに対して一括で設定され、マイク個別での設定はできません。
- マイク電池設定は送信機に対しては設定されません。送信機は常にアルカリ電池として動作します。
- 残量表示については「マイク電池残量を確認する」（55ページ）をお読みください。

設定のしかた

■ マイク音声設定

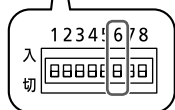
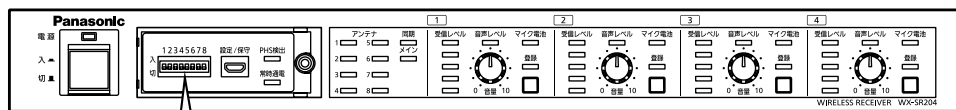
動作設定スイッチのNo.6で、本機および本機に接続された増設ワイヤレス受信機で使用するマイクまたは送信機の音声を設定します。

通常は「標準」の設定でご使用ください。

「標準」：マイクまたは送信機音声の高域成分を調整した、スピーチに適したモードです。

「高品位」：音質を重視したモードです。ただし、音声の遅延時間が「標準」設定より長くなります。

本機



動作設定スイッチ

※イラストはWX-SR204を使用しています。
スイッチカバーを外したときのイラストです。

動作設定スイッチ番号	マイク音声設定
No.6	
切	標準（工場出荷設定）
入	高品位



- 動作設定スイッチの設定は本機の電源起動時に反映されます。電源「入」中に設定変更した場合は、一度本機の電源を「切」にしてから再度「入」にして、再起動してください。



- マイク音声設定は1つの受信システム（対象の受信機およびそれに接続された増設受信機）に登録されているすべてのマイク、送信機に対して一括で設定され、マイク、送信機個別での設定はできません。

ペアリング登録

本機とマイクまたは送信機の間で通信を行うには、本機とマイクまたは送信機のペアリング登録（以下、登録）が必要です。

本機に登録していないマイクまたは送信機を使用する場合や、登録エラーが発生したときは、登録を行ってください。

1台の受信機に登録可能な最大のマイク数（送信機はマイク1台相当）および、同時使用可能なマイク数（送信機含む）は以下のとおりです。

登録可能な数を超過して登録した場合は、登録順が古いマイク（送信機含む）から上書きして登録されます。

受信機	登録可能な最大マイク数（送信機含む）	同時使用可能なマイク数（送信機含む）
WX-SR202	1チャンネルあたり6	2（1チャンネルあたり1）
WX-SR204	1チャンネルあたり6	4（1チャンネルあたり1）

ペアリング登録の方法については、マイクまたは送信機の取扱説明書もあわせてお読みください。



- ペアリング登録したマイク、送信機の登録情報の保存完了までに約10秒必要です。ペアリング登録直後（10秒以内）に本機の電源を切らないでください。

■ 無線ペアリング

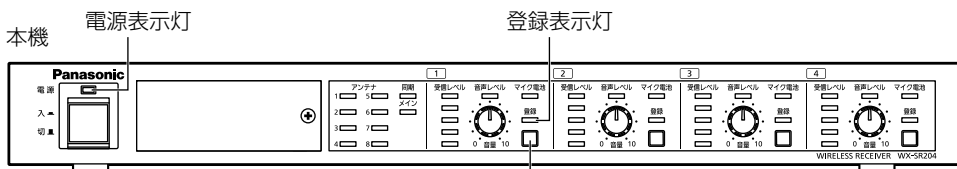
マイクまたは送信機とアンテナ間で無線通信を行って登録します。本機に接続されているアンテナと無線通信が可能な距離で登録を行ってください。

1 マイクの電池カバーを取り外す（送信機は不要）

詳しくは各マイクの取扱説明書をお読みください。

2 受信機を登録モードにする

本機の「電源」表示灯（緑色）が点灯していることを確認し、本機の登録したいチャンネルの「登録」ボタンを2秒以上押します。登録モード時は「登録」ボタンを押したチャンネルの「登録」表示灯が橙色に点滅します。登録モードは30秒間続きますので、この時間内に対象のマイクまたは送信機を登録してください。



登録ボタン

※イラストはWX-SR204を使用しています。

ペアリング登録

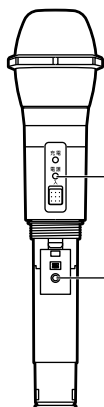
3 マイクまたは送信機を登録する

登録対象のマイクまたは送信機の電源が「入」の状態でもマイクまたは送信機の「登録」ボタンを2秒以上押し、マイクまたは送信機の「電源」表示灯が橙色点滅して登録を開始します。

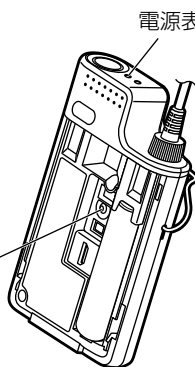
正常に登録が完了すると、マイクまたは送信機の「電源」表示灯が電池残量に応じた通常の点灯状態（緑色点灯／橙色点灯／赤色点灯）になり、本機の登録されたチャンネルの「登録」表示灯が1秒間緑色点灯して消灯します。

- 正常に登録できなかった場合はマイクまたは送信機の「電源」表示灯が赤色点滅します。その場合はマイクまたは送信機をできるだけアンテナに近づけて、再度、登録を実施してください。（電波状況が悪い場合、アンテナから遠い場所など登録に失敗する場合があります。）

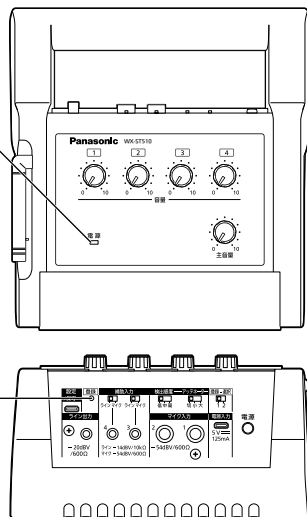
WX-ST200



WX-ST400



WX-ST510



4 マイクの電池カバーを取り付ける（送信機は不要）

詳しくは各マイクの取扱説明書をお読みください。



- 該当するチャンネルでマイクまたは送信機を使用している場合は、「登録」ボタンが無効となります。使用中のチャンネルに別のマイクまたは送信機を登録したい場合は、そのチャンネルで使用中のマイクまたは送信機の電源を「切」にしてから登録を行ってください。
- 本機で同時に複数のチャンネルを登録モードにすることはできません。
- 本機のあるチャンネルが登録モードの場合もそれ以外のチャンネルは使用可能です。
- 設定保守用PCの運用支援ソフトから登録済みのマイクまたは送信機の削除ができます。詳しくは運用支援ソフトの取扱説明書をお読みください。

■ 有線ペアリング

本機と登録対象のマイクまたは送信機を有線接続して登録を行います。
 接続は変換ケーブル（マイクロBオス→タイプAメス）（市販品）とUSB2.0ケーブル（タイプAオス→マイクロBオス）（市販品）で行います。
 ※変換ケーブルはUSBホストケーブル（OTGケーブル）を使用してください。

1 マイクの電池カバーを取り外す（送信機は不要）

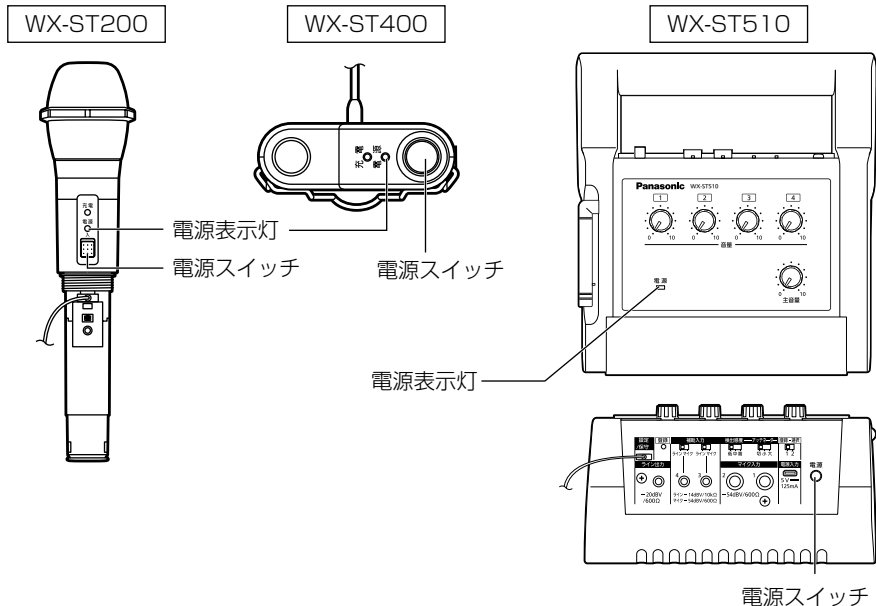
詳しくは各マイクの取扱説明書をお読みください。

2 マイクまたは送信機を本機に接続する

本機の [設定/保守] 端子とマイクまたは送信機の [設定/保守] 端子を変換ケーブル（マイクロBオス→タイプAメス）（市販品）およびUSB2.0ケーブル（タイプAオス→マイクロBオス）（市販品）で接続します。
 ケーブル接続時、変換ケーブルが本機側になるようにしてください。逆に接続すると登録できません。
 詳しい接続方法は「マイク、送信機との接続」（31ページ）をお読みください。

3 マイクまたは送信機の電源を「入」にする

登録対象のマイクまたは送信機の電源が「切」の場合は、電源を「入」にしてください。
 本機とマイクまたは送信機をケーブル接続している場合は、マイクまたは送信機からの音声は拡声されません。



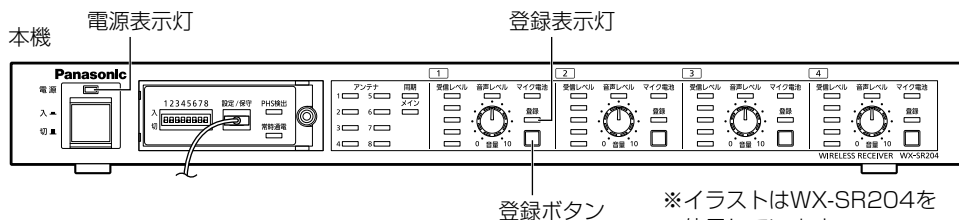
ペアリング登録

4 本機にマイクまたは送信機を登録する

本機の「電源」表示灯（緑色）が点灯していることを確認し、本機の登録したいチャンネルの「登録」ボタンを2秒以上押し、本機と本機に接続したマイクまたは送信機が同時に登録モードに移行し、登録を開始します。登録モード時は対象マイクの「電源」表示灯と本機の「登録」ボタンを押したチャンネルの「登録」表示灯が橙色に点滅します。

正常に登録が完了すると、マイクまたは送信機の「電源」表示灯が電池残量に応じた通常の点灯状態（緑色点灯／橙色点灯／赤色点灯）になり、本機の登録されたチャンネルの「登録」表示灯が1秒間緑色点灯して消灯します。

- 正常に登録できなかった場合はマイクまたは送信機の「電源」表示灯が赤色点滅します。



※イラストはWX-SR204を使用しています。
スイッチカバーを外したときのイラストです。

5 マイクまたは送信機を本機から取り外す

本機とマイクまたは送信機を接続しているケーブルを抜き、マイクまたは送信機を本機から取り外します。

正常に登録が完了している場合はそのままマイクまたは送信機からの音声を拡声できます。

6 マイクの電池カバーを取り付ける（送信機は不要）

詳しくは各マイクの取扱説明書をお読みください。

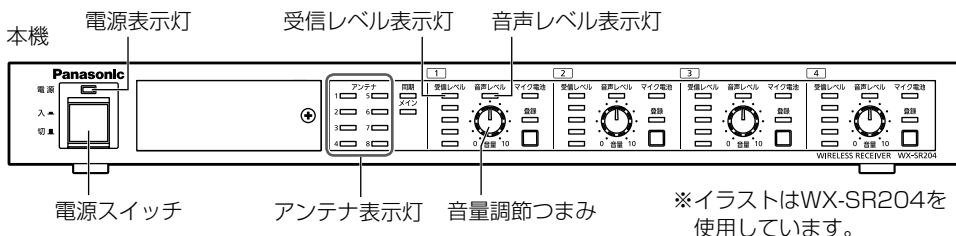


- マイクまたは送信機使用中は本機の該当するチャンネルの「登録」ボタンが無効となります。使用中のチャンネルに別のマイクまたは送信機を登録したい場合は、そのチャンネルで使用中のマイクまたは送信機の電源を「切」にしてから登録を行ってください。
- 本機のあるチャンネルが登録モードの場合もそれ以外のチャンネルは使用可能です。
- 設定保守用PCの運用支援ソフトから登録済みのマイクまたは送信機の削除ができます。詳しくは運用支援ソフトの取扱説明書をお読みください。

使いかた

■ 操作のしかた

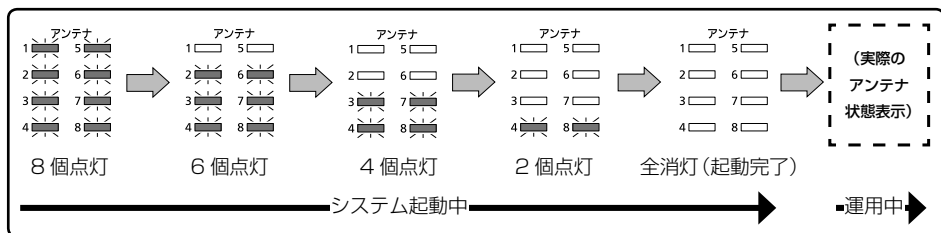
以下の手順で使用します。



1 本機の電源を入れる

本機の「電源」スイッチを「入」にします。

- [電源] 表示灯（緑色）が点灯します。
- システム起動中は下図のように [アンテナ] 表示灯が8個すべて点灯の状態から、起動処理が進むにしたがって、徐々に消灯していき、起動処理が完了後、いったんすべて消灯します。その後、接続されているアンテナの状態表示に切り替わります。



- システム起動時間の目安は、「システム起動時間について」(14ページ)をお読みください。

2 マイクまたは送信機の電源を入れる

マイクまたは送信機の「電源」スイッチを「入」にします。

- マイクまたは送信機が登録されているチャンネルの [受信レベル] 表示灯が点灯します。
- マイクまたは送信機に音声を入力すると、[音声レベル] 表示灯が点灯します。

3 マイクまたは送信機音量を調節する

音量を調節します。



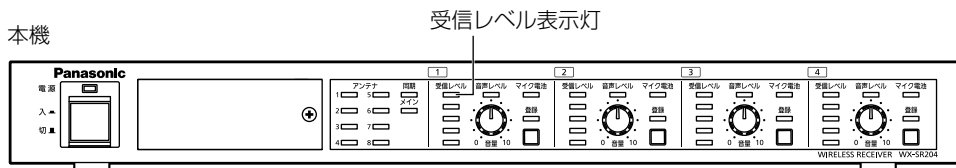
- 送信機は送信機本体に音量調節つまみがあります。送信機本体の音量調節と合わせて本機で音量の調節をしてください。

使いかた

■ 受信レベルを確認する

電波受信状態を確認することができます。

チャンネルごとに、通話状態にあるマイクまたは送信機の電波の受信強度を5段階で表示します。



※イラストはWX-SR204を使用しています。

[受信レベル] 表示灯の表示

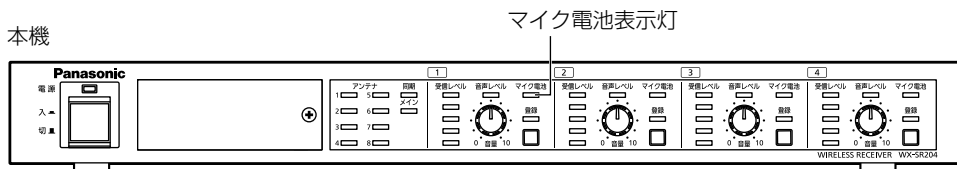
表示	状態
点灯（緑色5個）	強電界
点灯（緑色4個）	強～中電界
点灯（緑色3個）	中電界
点灯（緑色2個）	弱電界
点灯（緑色1個）	圏外付近
全消灯	登録されたマイク、送信機の電波なし、またはマイク、送信機未登録
点灯（赤色1個～5個）	受信エラー



- マイクまたは送信機を使用するエリア内で [受信レベル] 表示灯が常時3個以上点灯しているようにアンテナ配置、アンテナ・フィールド選択を設定すると安定して運用できます。

■ マイク電池残量を確認する

各チャンネルのマイクまたは送信機からの電池残量を示すデータを受信すると、電波を受信しているマイクまたは送信機の電池残量を3段階（消灯＝データなし）で表示します。



※イラストはWX-SR204を使用しています。

[マイク電池] 表示灯の表示

表示	状態
点灯（緑色）	1時間以上
点灯（橙色）	1時間以下
点灯（赤色）	残量なし*
消灯	データなし（通話状態ではない）

※ 新しい電池に交換または充電の場合は充電してください。



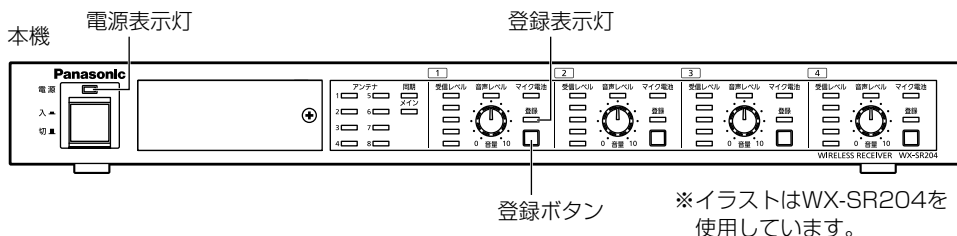
- 受信が途切れると電池残量表示はリセットされ、[マイク電池] 表示灯は消灯しますが、再度データを受信すると再点灯します。
- 電池残量（寿命）は、電池のメーカー・種類・使用時の温度などによって異なります。
- 残量表示は「マイク電池設定」（47ページ）で設定された電池タイプ（アルカリ乾電池またはニッケル水素電池）に応じて表示されます。ただし、送信機は「マイク電池設定」にかかわらず、常にアルカリ乾電池として表示されます。
- 実際に使用するマイクの電池タイプと設定された電池タイプが異なっていても、連続動作時間に影響はありませんが、橙色点灯や赤色点灯の時間が極端に長くなる、あるいは極端に短くなるなど、正しい残量表示がされない可能性があります。

使いかた

■ 登録されているマイクまたは送信機を確認する

1 本機をペアリング登録確認モードにする

本機の「電源」表示灯（緑色）が点灯していることを確認し、マイクまたは送信機通話中のチャンネルのうち、確認したいチャンネルの「登録」ボタンを短く1回押すとペアリング登録確認モードに移行し、5秒間「登録」表示灯が交互点灯（橙色／緑色）します。

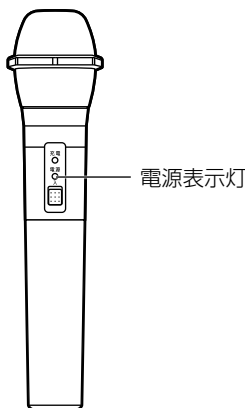


2 マイクまたは送信機の「電源」表示灯を確認する

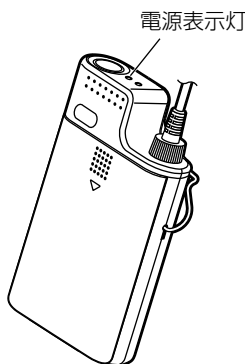
本機がペアリング登録確認モードの間、本機の対象チャンネルと登録されているマイクまたは送信機の電源が「入」の状態の場合、マイクまたは送信機の「電源」表示灯が交互点灯（橙色／緑色）し、登録を確認することができます。

本機およびマイクまたは送信機ともに、ペアリング登録確認モードは5秒間継続し、終了後、通常の状態に戻ります。

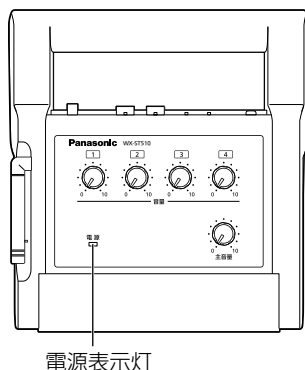
WX-ST200



WX-ST400



WX-ST510





- ペアリング登録確認はマイクまたは送信機通話中のチャンネル（[受信レベル] 表示灯が1個以上点灯しているチャンネル）で実行可能です。通話中ではないチャンネルは [登録] ボタンを押しても何も起きません。
- ペアリング登録確認モード移行時に本機の [登録] 表示灯が赤色点滅し消灯した場合、本機の対象チャンネルにマイクまたは送信機が登録されていません。「ペアリング登録」（49ページ）を実施してください。
- ペアリング登録確認はマイクまたは送信機からも実施可能です。ペアリング登録確認実施中もマイクまたは送信機からの音声は拡声されません。マイクまたは送信機の取扱説明書もあわせてお読みください。

運用支援ソフトについて

運用支援ソフトをインストールした設定保守用PCは本機と接続し、1.9 GHz帯デジタルワイヤレスマイクシステムの各種設定や状態管理をすることができます。



- 本システムでは、運用支援ソフトがないと設定変更できない機能があります。運用支援ソフトの入手は販売店にお問い合わせください。

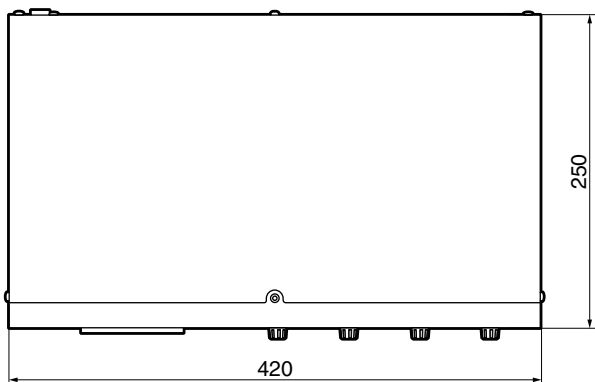
運用支援ソフトの機能は以下のとおりです。詳しくは運用支援ソフトの取扱説明書をお読みください。

項目	内容		運用支援ソフトのみの機能
状態表示	受信機状態表示	受信機、増設受信機の接続状態、システム同期状態を表示します。	
	アンテナ状態表示	アンテナの接続状態と設定した送信パワーを表示します。	
	マイク状態表示	マイクまたは送信機の登録情報、電池残量、マイク感度、ローカット設定、パッドスイッチ（PAD）設定を表示します。	
動作設定	登録モード	受信機または増設受信機をマイク登録モードにします。	
	登録確認	受信機または増設受信機に登録されたマイクまたは送信機の確認をします。	
	登録削除	受信機または増設受信機に登録されているマイクまたは送信機の登録を削除します。	●
	名称登録	ワイヤレス受信機、マイク、送信機、アンテナの名称を登録します。	●
	フィールド選択	各アンテナの送信パワーを個別に設定します。	(※)
	スタンバイ	マイク電源OFF後のスタンバイ時間を設定します。	●
	ネットワーク設定	受信機のIPアドレス、サブネットマスク、デフォルトゲートウェイ、ポート番号を設定します。	●
	ユーザー登録/管理	ユーザーの追加および使用可能な機器の設定をします。	●
	受信機登録/管理	運用支援ソフトと接続する受信機の新規登録、および受信機の設定状態の確認をします。	●
	グループ登録/管理	各受信機の所属グループを設定します。	●
メンテナンス	PHS検出表示	PHSが周囲に存在するか表示します。	
	スロットモニター	選択したアンテナで、無線リソースの使用状況をモニタリングします。	●
	簡易スペクトラムアナライザー	選択したアンテナで、1.9 GHz付近の周波数スペクトルをモニタリングします。	●
	ウォークテスト	選択したマイクまたは送信機で、受信電波の強度と接続アンテナの履歴をモニタリングします。	●
	ログ	受信機に保存されている運用ログを表示します。	●
	バージョンアップ	受信機、増設受信機、アンテナのバージョンアップを実施します。	●

※ 受信機のみでは個別設定不可

外形寸法図

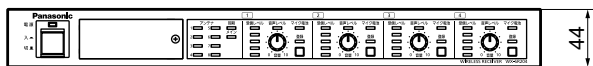
単位：mm



WX-SR202



WX-SR204



その他

故障かな!?

修理を依頼される前に、この表で現象を確かめてください。

これらの対策をしても直らないときやわからないとき、この表以外の現象が起きたときは、お買い上げの販売店にご相談ください。

現象	原因・対策	参照ページ
電源が入らない	● 電源プラグが電源コンセントに確実に接続されていますか？ ➔ 接続されているか、確認してください。	18、24、 26、28
音声が出ない	● LANケーブル（21ページ）が外れていませんか？ ➔ ワイヤレスアンテナ接続端子にケーブルを挿入してください。	18、24、 26、28
	● 出力端子から出力線が外れていませんか？ ➔ 出力端子に出力線を結線してください。	18、26、 28
	● [電源] スイッチが「切」になっていませんか？ ➔ [電源] スイッチを「入」にしてください。	15、53
	● [音量] 調節つまみが「0」になっていませんか？ ➔ [音量] 調節つまみを正しく設定してください。	17、53
マイク、送信機が登録できない	● LANケーブルが外れていませんか？ ➔ ワイヤレスアンテナ接続端子にケーブルを挿入してください。	18、24、 26、28
	● 別のマイクまたは送信機が使用中ではありませんか？ ➔ マイクまたは送信機の使用を終了してから、登録してください。	50、52
	● マイクの電池の残量がなくなっていないですか？ ➔ 新しい電池に交換または充電機の場合は充電し、登録を行ってください。	49
	● 送信機の電池の残量がなくなっていないですか？ ➔ 新しい電池に交換またはUSB電源アダプターを接続し、登録を行ってください。	—
[アンテナ] 表示灯が赤色／緑色交互点灯している	● アンテナのファームウェアのバージョンアップが必要となります。 ➔ 販売店にお問い合わせください。	16
全ての [アンテナ] 表示灯が橙色同時点滅している	● 増設受信機のファームウェアのバージョンアップが必要となります。 ➔ 販売店にお問い合わせください。	16

仕様

製品品番	WX-SR202		WX-SR204
電源	AC100 V 50 Hz/60 Hz		
消費電力	39 W		
周波数特性	50 Hz~15 kHz		
S/N	チャンネル出力：70 dB以上 ミキシング出力：64 dB以上		
ワイヤレス アンテナ 接続端子	接続数	8	
	コネクタ	RJ-45	
	使用ケーブル	CAT5/CAT5e/CAT6 ストレートケーブル	
増設ワイヤレス 受信機接続端子	コネクタ	RJ-45	
	使用ケーブル	CAT5/CAT5e/CAT6 ストレートケーブル	
補助入力端子	コネクタ	ユーロブロック	
	入力特性	-10 dBV 平衡 600 Ω	
チャンネル 出力端子	系統数	2	4
	コネクタ	ユーロブロック	
	出力特性	-10 dBV 平衡 600 Ω	
ミキシング 出力端子	コネクタ	ユーロブロック	
	出力特性	-10 dBV/-50 dBV 平衡 600 Ω	
ネットワーク 接続端子	コネクタ	RJ-45	
	通信方式	100BASE-TX	
設定保守用 接続端子	コネクタ	USB マイクロB	
表示 (インジケータ)	共通	電源、アンテナ1~8、同期、メイン、PHS検出、常時通電	
	各チャンネル	受信レベル (5段階)、音声レベル、マイク電池、登録	
使用温度範囲	0 °C~45 °C		
使用湿度範囲	0 %~90 % (結露なきこと)		
寸法	約420 mm (幅) × 44 mm (高さ) × 250 mm (奥行き) (ゴム足、つまみなど突起部除く)		
質量	約2.8 kg		
仕上げ	AVライトグレー塗装		

保証とアフターサービス

よくお読みください

使いかた・お手入れ・修理などは

■まず、お買い求め先へご相談ください

▼お買い上げの際に記入されると便利です

販売店名	
電話	() -
お買い上げ日	年 月 日

修理を依頼されるときは「故障かな!?!」(60ページ)でご確認のあと、電源コードを抜いて、お買い上げ日と右の内容をご連絡ください。

●製品名	ワイヤレス受信機
●品番	WX-SR202、WX-SR204
●故障の状況	できるだけ具体的に

●保証期間中は、保証書の規定に従って出張修理いたします。

保証期間：お買い上げ日から本体1年間

●保証期間終了後は、診断をして修理できる場合はご要望により修理させていただきます。

※修理料金は次の内容で構成されています。

技術料 診断・修理・調整・点検などの費用

部品代 部品および補助材料代

出張料 技術者を派遣する費用

※補修用性能部品の保有期間 **7年**

当社は、本製品の補修用性能部品（製品の機能を維持するための部品）を、製造打ち切り後7年保有しています。

アフターサービスについて、おわかりにならないとき

お買い上げの販売店または保証書表面に記載されています連絡先へお問い合わせください。

長期間使用に関するお願い

安全にお使いいただくために、販売店または施工業者による定期的な点検をお願いします。

本機を長年お使いの場合、外観上は異常がなくても、使用環境によっては部品が劣化している可能性があり、故障したり、事故につながることもあります。

下記のような状態ではないか、日常的に確認してください。

特に10年を超えてお使いの場合は、定期的な点検回数を増やすとともに買い換えの検討をお願いします。

詳しくは、販売店または施工業者に相談してください。

このような状態ではありませんか？

- 煙が出たり、こげくさいにおいや異常な音がする。
- 電源コード・電源プラグ・ACアダプターが異常に熱い。または割れやキズがある。
- 製品に触るとビリビリと電気を感じる。
- 電源を入れても、音が出てこない。
- その他の異常・故障がある。

直ちに使用を中止してください


故障や事故防止のため、電源を切り、必ず販売店または施工業者に点検や撤去を依頼してください。

取扱説明書に記載されていない方法や、指定の部品を使用しない方法で施工されたことにより事故や損害が生じたときには、当社では責任を負えません。また、その施工が原因で故障が生じた場合は、製品保証の対象外となります。

■ 使いかた・お手入れ・修理などは、まず、お買い求め先へご相談ください。

■ その他ご不明な点は下記へご相談ください。

パナソニック システムお客様ご相談センター

電話 フリーダイヤル  **0120-878-410** バナハ ヨイフ 受付：9時～17時30分
(土・日・祝祭日は受付のみ)
※携帯電話・PHSからもご利用になれます。

ホームページからのお問い合わせは <https://panasonic.biz/cns/cs/cntctus/>

ご使用の回線(IP 電話やひかり電話など)によっては、回線の混雑時に数分で切れる場合があります。

本書の「保証とアフターサービス」もご覧ください。

【ご相談窓口におけるお客様の個人情報のお取り扱いについて】

パナソニック株式会社およびグループ関係会社は、お客様の個人情報をご相談対応や修理対応などに利用させていただき、ご相談内容は録音させていただきます。また、折り返し電話をさせていただくのために発信番号を通知いただいております。なお、個人情報を適切に管理し、修理業務等を委託する場合や正当な理由がある場合を除き、第三者に開示・提供いたしません。個人情報に関するお問い合わせは、ご相談いただきました窓口にご連絡ください。

パナソニック株式会社 コネクティッドソリューションズ社

〒812-8531 福岡県福岡市博多区美野島四丁目1番62号

© Panasonic Corporation 2018

PGQX2229VA
mes0318-4128
Printed in China